

# USHIO サステナビリティレポート 2006

未来は「光」でおもしろくなる  
**USHIO**

## 「光」でできること、「光」だからできること

高精度化、超微細化、低温処理化がどんどん進む技術革新の真ただ中で、  
光がこれらのボトルネックを解決する新しい有効な手段として、  
さまざまな分野で重要な役割を担い始めています。  
これからの光創造企業集団 USHIOに、どうぞご期待ください。

インターネットでUSHIOのホームページをご覧ください。  
<http://www.ushio.co.jp>

『USHIO サステナビリティレポート 2006』に関する  
ご意見、お問合せは下記までご連絡ください。

発行:ウシオ電機株式会社  
管理総括 管理本部 環境マネジメント統括室  
〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1  
TEL.(03)3242-1892 FAX(03)3245-0589



この印刷物は、FSC認証紙を使用し、植物油100%の「大豆油インキ」を使い、ISO14001認証工場において「水なし印刷」で印刷しています。  
また、省資源化(フィルムレス)につながるCTPにより製版しています。

06-06-80000 ①

 みんなで止めよう温暖化  
チーム・マイナス6%

環境経営報告書 2006

未来は「光」でおもしろくなる  
**USHIO**

# USHIO サステナビリティレポート 2006

## CONTENTS

会社概要／主要グループ・ネットワーク	1	<b>環境報告</b>	
トップコミットメント	2	<b>環境マネジメントシステム</b>	
<b>サステナブルビジョン</b>		推進体制と行動計画・実績	20
サステナブル経営について		環境マネジメントシステム概要	22
ウシオの目指す姿	4	環境教育	23
2005年度の取り組みと長期ビジョン	6	環境リスクマネジメント	24
<b>ウシオのCSRIについて</b>		<b>環境保全活動</b>	
ウシオのCSR	7	環境配慮型製品開発	25
CSRコミュニケーション	9	地球温暖化対策	26
コンプライアンス	10	グリーン調達	27
<b>経済性報告</b>		ゼロエミッション・リサイクル	28
事業ビジョン	11	<b>環境データ</b>	
2005年度の実績	12	環境会計	29
<b>社会性報告</b>		エコバランス	30
お客さまとのかわり	14	サイトデータ	31
知的財産保護の取り組み	15	<b>第三者意見</b>	37
社員とのかわり	16		
社会コミュニケーション	18		
社会貢献活動	19		

### 〈編集方針〉

ウシオ電機の環境報告書は、2003年に『サイト環境レポート2003(播磨事業所版)』を発行し、事業所単独の報告書作成からスタート。翌年には報告対象範囲を拡大し、ウシオ電機全社の報告書である『環境報告書2004』に集約しました。さらに2005年度は、環境側面に加え、経済側面・社会側面の活動も報告する『USHIO サステナビリティレポート2005』へと発展させ、報告範囲に一部グループ会社を含めるなど、掲載内容と報告範囲を一步一步、拡充・拡大してきました。今回の『USHIOサステナビリティレポート2006』は、「連結環境経営対象範囲」(P1参照)のグループ会社を網羅し、グループ全体をカバーした報告書としたほか、CSRに関する報告も一層充実させました。また2005年度のレポートがステークホルダーの方々に「読みやすい」とご好評であったことから、継続してお読みいただくことを念頭に、編集構成とデザインレイアウトを継承して作成しました。

- 対象：・お客さま、株主、投資家、お取引先、社員、地域社会、行政、NGO・NPOなどのステークホルダーの方々
- 特徴：・サステナブル経営のための考え方を、経済・社会・環境の3つの側面から取り組み内容を掲載。写真・フロー図・データでの記載を増やし、当社の取り組み姿勢や活動内容をご理解いただきやすいレポート制作を心がけました。
- ・各項目で、Q&A方式(問いかけに答える記載構成)を採用し、読者に少しでもわかりやすいページ構成の工夫をしております。

編集にあたっては、次のガイドラインを参考にしております。  
 ・環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」  
 ・GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」

### 〈報告対象範囲〉

当社全事業所および国内外のグループ会社情報の掲載

### 〈報告対象期間〉

2005年4月1日～2006年3月31日  
 (一部2006年6月までの取り組み、見直しなどを含む)

### 表紙について

「光の三原色」と、環境の象徴である「葉」をモチーフに、経済(赤)・社会(青)・環境(緑)をデザイン、昨年はウシオグループの事業活動が発展し、世界を照らしてゆく様子を表現しました。2006年度は昨年と同じ「光の三原色」葉をモチーフに、ウシオグループが世界に向けて活動してゆく様をより力強く、明るく、デザインしています。



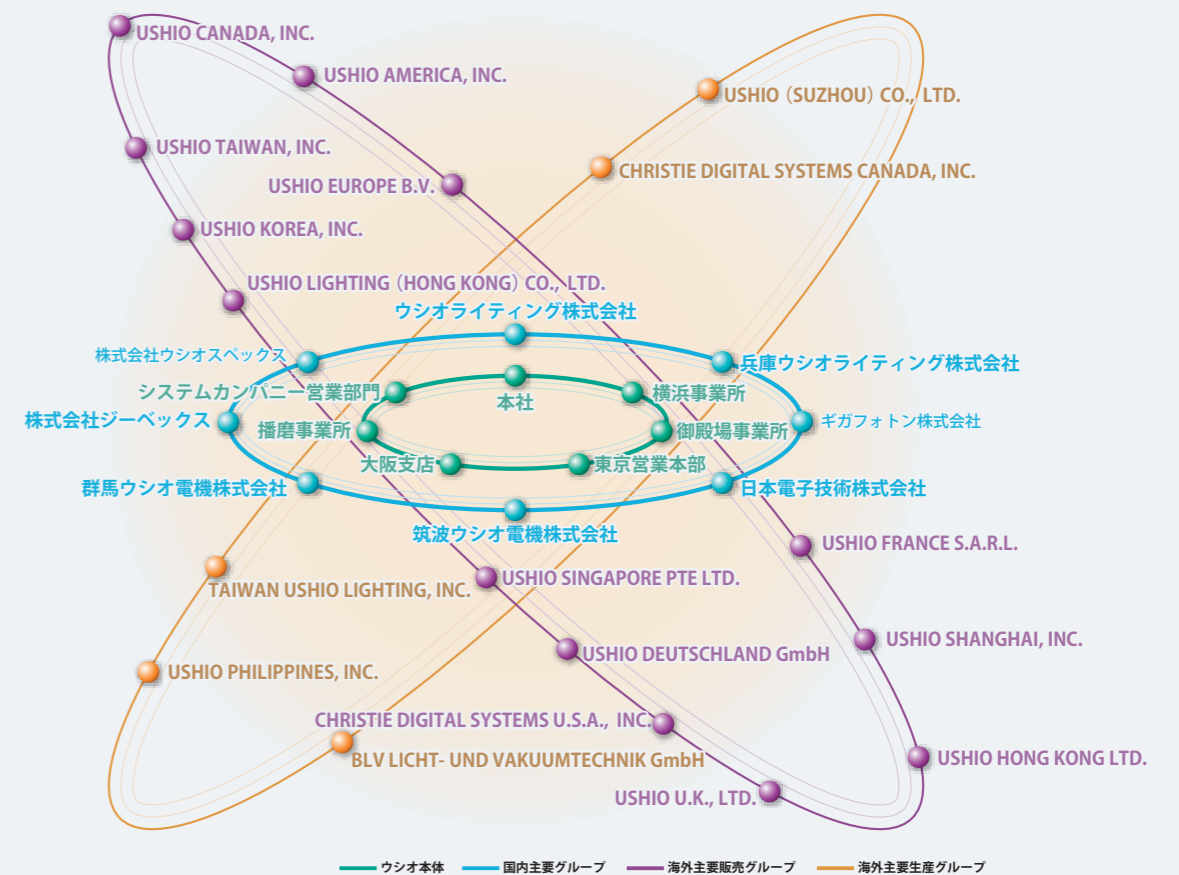
※本レポートは、ステークホルダーの方々とうしおとの相互のコミュニケーションを図るツールとして、みなさまのご意見や、ご感想をいただき今後の改善活動に活かしていく所存です。アンケートを添付しておりますので、どうぞご利用いただけますようお願いいたします。

## 会社概要

(平成18年3月31日現在)

<b>設立</b>	昭和39年3月	
<b>資本金</b>	19,556,326,316円	
<b>役員</b>	代表取締役会長	牛尾 治朗
	代表取締役副会長	田中 昭洋
	代表取締役社長	菅田 史朗
	取締役	後藤 学
	取締役	志手 總一
	取締役	多木 正
	取締役	大島 誠司
	取締役	牛尾 志朗
	常勤監査役	四分一 直
	常勤監査役(社外)	三村 隆久
	常勤監査役	垣見 勝紀
	監査役(社外)	関口 伸二
	監査役(社外)	服部 秀一
<b>社員数</b>	ウシオ電機本体	1,589名
	国内グループ計	518名
	海外グループ計	2,283名
	合計	4,390名
<b>事業所一覧</b>	本社	東京都千代田区
	播磨事業所	兵庫県姫路市
	横浜事業所	横浜市青葉区
	御殿場事業所	静岡県御殿場市
	東京営業本部	東京都千代田区
	システムカンパニー営業部門	横浜市青葉区
	大阪支店	大阪市淀川区

【主要グループ・ネットワーク】 表記が太文字のウシオ電機本社・支店・事業所およびグループ会社は「連結環境経営対象範囲」です。





持続可能な社会のため、  
高い目線と大胆な発想で。

代表取締役会長兼  
ウシオグループ代表

宇野浩訓

### 変化を避けず、今のベストを常に考え、高い目線を持つ

『経営にイノベーション(革新)があるから成功する。イノベーションとはインベンション(新基軸)をアクション(行動)すること』。これは、20世紀有数の経済学者シュンペーターの言葉です。私は、この言葉を「物ごとを考えるときには、従来の延長線ではなく、いったん白紙にして、現状に合わせて何がベストかを考えること」と理解しています。

企業活動に置き換えれば、目の利益や小手先の対応ではなく、

高い目線から広く遠くまで眺め、中長期的に物ごとを大きく捉えて革新すべきときは大胆に革新することになるでしょう。「環境」と「CSR」も、この考え方で読み解くことができると思います。目の利益や小手先の対応を積み重ねたツケがすなわち環境破壊であり、企業における社会的信用の失墜です。ですからウシオは、持続可能な社会の実現には、何よりも「高い目線」が欠かせないと考えています。

### ウシオは70年代から「自然との共存・調和」を想定

ウシオが「自然との共存、調和」という新基軸に着目したのは1970年代前半のことでした。

日本は、明治維新の大変革を経験してからおよそ100年の間、自然を克服し、征服する近代化西欧的文明の上に立った技術革新の道をひた走りました。その結果、大気汚染や河川の水質汚濁といったさまざまな環境破壊が発生し、大きな社会問題となっ

ていったのです。60～70年代とはそうした時代でしたが、私はその当時から、技術の進歩に明け暮れた100年のあとには、エコロジー(生態学)にはじまる自然との共存・調和という大きな課題がテーマになってくるのではないかと考えていました。

### ステークホルダーの方々の足並みがそろって今が行動の時

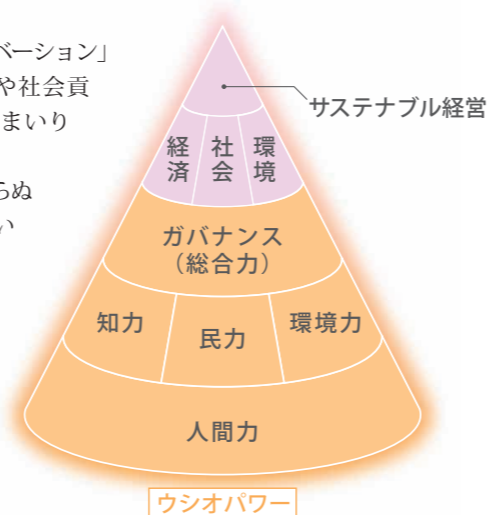
イノベーションを阻害するものは、過去の成功体験や保守的な風土・文化に根ざす、変化を避ける心です。高度経済成長の真ただ中であつた40年前には、環境保全という新基軸が受け入れられにくい状況にありましたが、「環境の世紀」といわれる21世紀を迎えて、あらゆるステークホルダーの方々の心の中に「環境」

というキーワードはすっかり定着し、足並みをそろえて行動に移す状況が整っています。その中でも企業は、自らの社会的責任を果たす上でもイニシアティブをとって行動することが重要であると考えます。

### 5つの力、「ウシオパワー」でイノベーションを推進

では、イノベーションを推進するものとは何でしょうか。私はとりわけ「環境力」が重要であると考えています。「環境力(環境・資源生産性)」とは、環境活動を「しかたなく」ではなく、むしろ業績や競争力を立て直すコアと戦略的に置き換えてポジティブに取り組み、事業はもとより社会経済全体を発展させる力です。エコ製品に対する購買意欲やグリーン購入が定着してきたことから、「環境力」は今後の企業活動に欠かせないものと考えべきでしょう。この「環境力」に加えて、「知力(知識生産性)」「民力(社会生産性)」という社会全体のチカラ、そしてウシオで働く社員一人ひとりの「人間力」、グループの力を結集する「総合力」。ウシオはこの5つの「力」をもって『ウシオパワー』とし、環境、CSRなどさまざまな場面で「光のイノベーション」にチャレンジします。

今後とも「光のイノベーション」を通じて、環境保全や社会貢献を積極的に行ってまいります。みなさまには、変わらぬご支援・ご指導をお願いいたします。



社会的な活動にも積極的に取り組み、  
企業価値を一層高めていく。

代表取締役社長  
環境委員会委員長・グループ環境会議議長

菅田史朗



### みなさまの期待に応え、社会に選ばれる企業を目指す

ウシオグループは創業以来「光」の先進企業として、みなさまのニーズにお応えできる企業を目指し、創立40周年を迎えた2004年度以降を「第二の創生期」と位置付け、新しい事業計画や組織改革をスタートしました。時代の変化にともない、より鮮明になってきた社会的課題をあらたに企業理念へ反映させ、企業価値の最大化に向けた取り組みを行ってきました。そして、開発・製造・販売の体制強化に加え、経営のスピード化など「全体最適化」

をさらに進めていくことを実践しております。私たちが目指すサステナブル経営は、これら全て適時にグループ一体で展開できてはじめて実現できると考えます。さらに、「光のイノベーション」を通じてみなさまの期待に応え、環境保全をはじめCSR活動を通じ社会に選ばれる企業を目指しつづけること、持続可能な社会の実現に向けた企業集団でありつづけること、それが私たちの使命と受け止めています。

### 「環境力」と「人間力」で、ウシオの成長を実現する

私たちは「環境力」を成長のキーワードと捉え、品質と同じように環境を追求することは営利活動と表裏一体であり、企業活動の理と考えます。将来のウシオを支える柱、大木を創生するためにも「環境力」をもって新製品の萌芽を健やかに育てることを目指します。さらに、ウシオの成長を「環境力」と加えて一人ひとりの「人間力」の向上により実現しなければなりません。近年増加傾向の企業の不祥事などからも重要度合いが計り知れるリスク管理。2005年度は「環境リスクマネジメント委員会」を発足しました。これは一例ですが、CSRの実践には、環境がもたらすさまざまなリスクの把握とその低減のための活動を推進し、関係者一人ひとりの危機管理体制の強化を図ることが必要

不可欠と考えているからです。これまで、「事業活動のあらゆる場面における環境保全への取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献」という基本理念のもと、2003年から具体的な活動目標と計画を策定し、製品や調達などでの環境配慮・負荷低減・EMSにも積極的に取り組んできました。今後さらに、理念の実現に向けイノベーションに推進する2010年に向けたビジョンをもって具現化を果たします。2007年から3年間の第2期行動計画を策定し、環境経営をより強化していきます。

### 第2期環境行動計画を制定

2005年度は、環境委員会発足当初から着実に環境への取り組みを前進させてきた前社長の田中昭洋(現代表取締役副会長)より、環境委員会委員長およびグループ環境会議議長を受け継ぎ進めてきました。今後の飛躍に向けた新しい戦略を積極的に進めるため、あらたに「第2期ウシオ環境行動計画目的・目標」を制定し、さらに課題を明確にして取り組んでまいります。

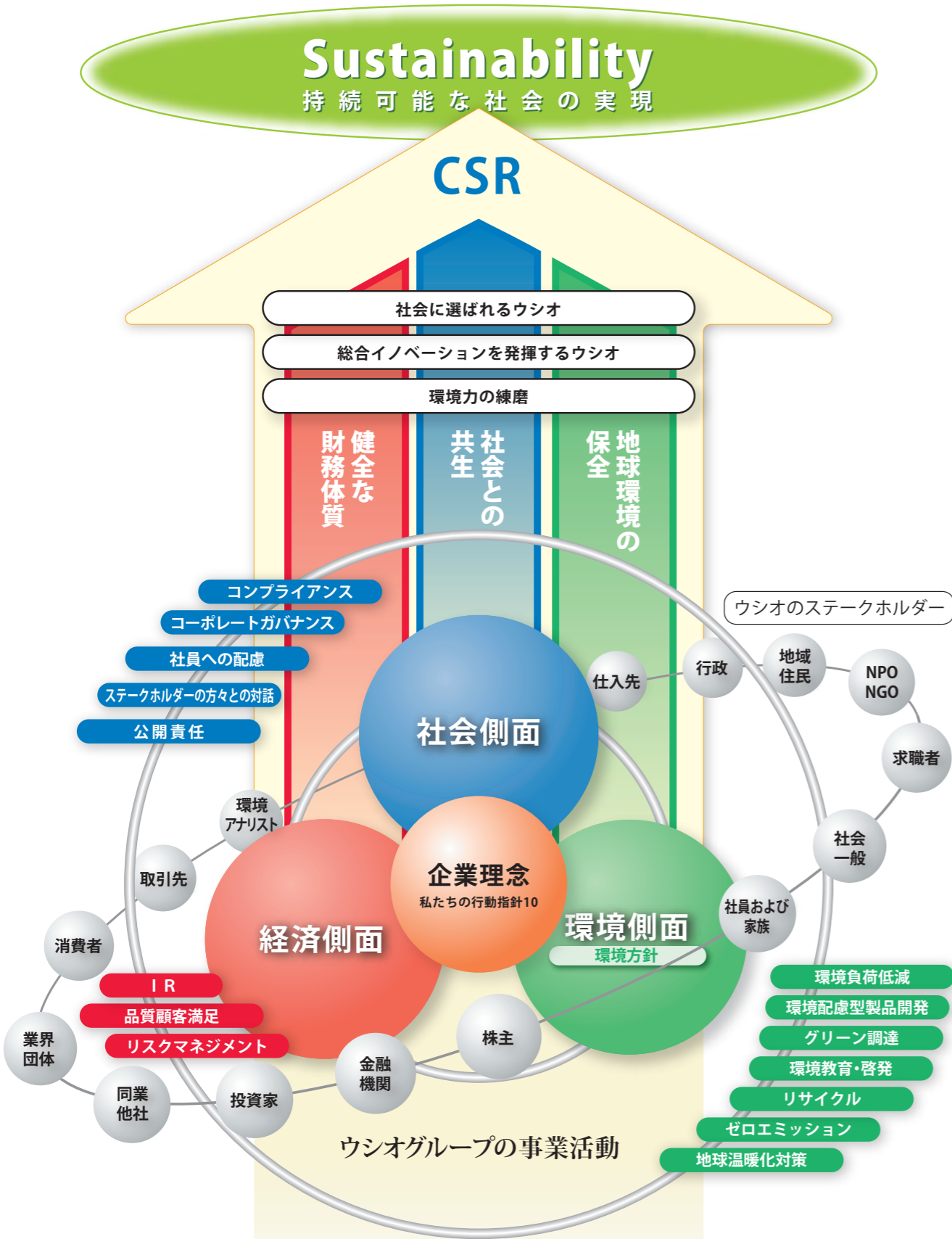
- 1. 環境経営**
  - ・環境と生産活動の連携強化による環境生産性の向上
  - ・環境リスクマネジメントシステムの強化
  - ・環境ガバナンスの強化 など
- 2. 環境に配慮した製品性能向上活動**
  - ・環境配慮型製品の拡大やリサイクルシステムの確立
  - ・製品含有化学物質対策の推進 など

- 3. 環境に配慮した事業活動**
  - ・地球温暖化対策の強化
  - ・廃棄物発生量の低減 など
- 4. 環境社会貢献活動**
  - ・ステークホルダーの方々とのコミュニケーション強化
  - ・社会貢献プログラムの実施 など

以上4つのテーマをサステナブル経営の大事な一端を担う取り組みとして認識し、「光のイノベーション」を通じて、豊かな社会、産業、生活の発展に貢献し、環境保全をはじめ社会的責任にも積極的に取り組み、ウシオグループの企業価値を一層高めてまいります。みなさまの期待に応える開かれた企業集団であり続けるようこれからも努力してまいります。引きつづきみなさまのご理解ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## ウシオの目指す姿

ウシオは、経済・社会・環境のトリプルボトムラインを基盤にサステナブル経営を強化して「持続可能な社会」の実現に貢献していきます。



ウシオは、人類の活動と地球の営みがバランスのとれた形で共存できる社会(持続可能な社会)を実現するという視点から、経済・社会・環境に配慮したサステナブル経営戦略を今後もより広く浸透させ、企業理念・行動指針・環境方針の3つを、一人ひとりが根幹から考え「人間力」の強化をもって実践します。また、ウシオグループ全体で成し遂げるための「総合力」をさらに強化していきます。2006年度は、「第2期ウシオ環境行動計画」を制定しました(P21参照)。今後もより進化した姿をステークホルダーの方々々に伝えつづけるようにいたします。

- ① 会社の繁栄と 社員一人ひとりの人生の充実を 一致させること。
- ② 国際市場において 十分競争力のある製品・サービスを 提供すること。
- ③ 優れた製品、新しい研究開発を通じ 進んで 社会に貢献すること。
- ④ オープンで自由な企業活動を通じ 競争力を高め 安定利潤を確保すると共に 企業の社会的責任を果たすこと。

### 社会の一員として私たちの行動指針10

- ① 私たちは、多様な個性と価値観を受け入れ、共働する会社を目指し、自己研鑽と自己改革に努めます。
- ② 私たちは、革新的で、挑戦的で、スピーディーな経営に取り組み、会社としての持続的な発展に努めます。
- ③ 私たちは、すべての人々の基本的な権利を尊重し、明るく安全快適な職場環境を作ります。
- ④ 私たちは、良質で安全な製品・サービスを適正な価格で提供し、公正・公平な取引を行ないます。
- ⑤ 私たちは、社会から理解と信頼を得られるように努めます。
- ⑥ 私たちは、法令を遵守し、社会的良識に従って、公正な企業活動を行ないます。
- ⑦ 私たちは、会社の定める規則や基準に従い、誠実に職務を遂行します。
- ⑧ 私たちは、環境保全と資源の有効活用に取り組みます。
- ⑨ 私たちは、積極的な広報活動を行なうとともに、第三者の情報の価値や権利を尊重します。
- ⑩ 私たちは、国際社会の一員として、それぞれの地域の発展に貢献します。

### ウシオ電機環境方針

**基本理念**  
ウシオは地球環境との共生が企業としての最重要課題の一つであると認識し、事業活動のあらゆる場面における、環境保全への取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

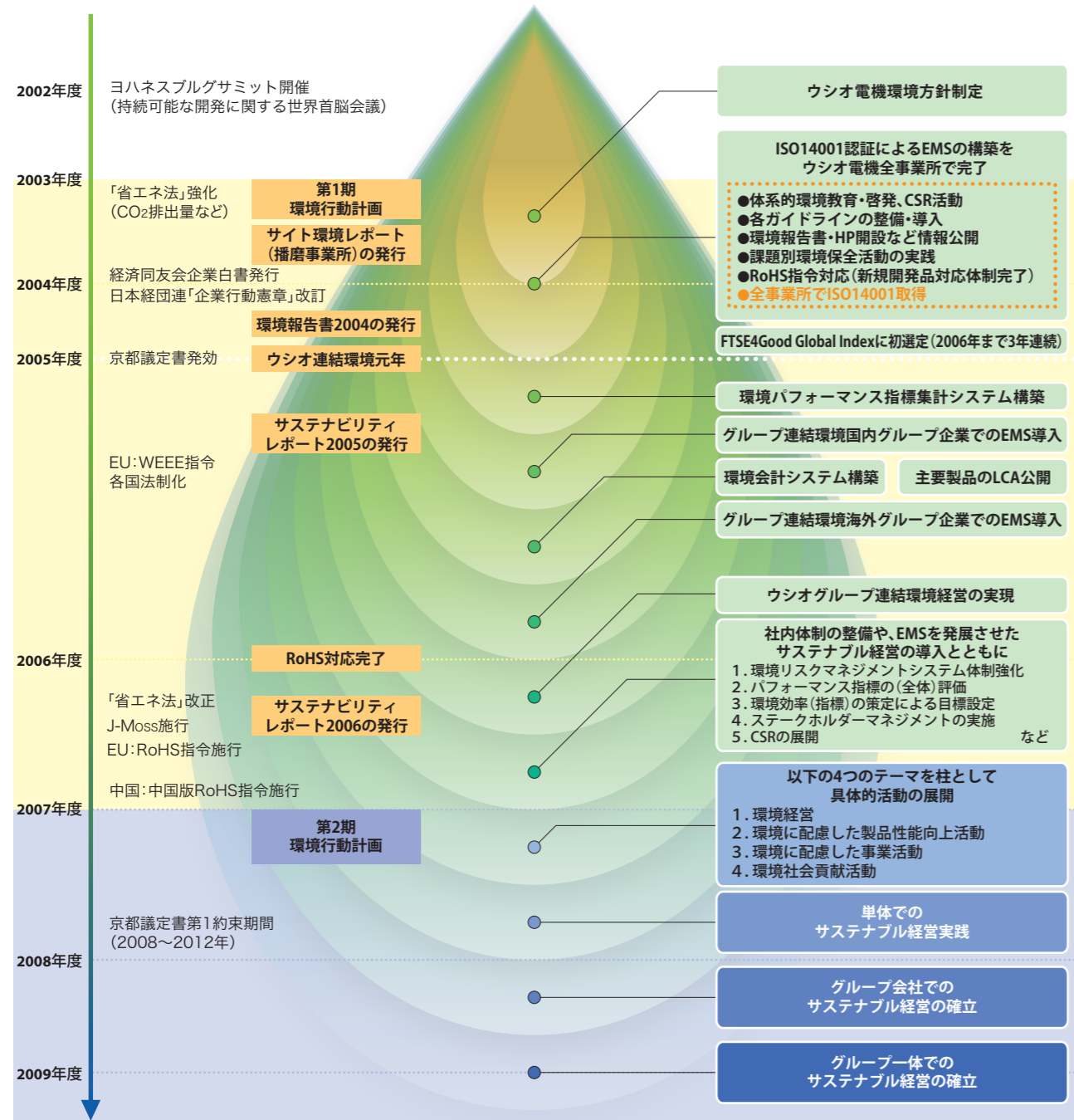
**行動指針**

- ① 国内外の法規制や環境上の規範の遵守はもとより、さらに自主的な基準を設定し、その実現に努めます。
- ② 全事業領域において、廃棄物・有害物質の削減、省資源、省エネルギーおよびリサイクルを推進し、環境負荷の低減に努めます。
- ③ 環境に配慮した「光技術・光製品」の開発・提供に継続的に取り組めます。
- ④ 化学物質や廃棄物による自然環境の汚染など、環境リスクの予防に努めます。
- ⑤ 環境保全への取り組みについて定期的な監査を実施し、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
- ⑥ 社会の皆さまに、環境への取り組みについての情報を提供し、対話と相互理解のもと、さらなる環境活動の向上に努めます。
- ⑦ 従業員一人ひとりが、環境保全のために果たすべき役割を自覚し、循環型社会の実現に向けて貢献します。

2005年3月1日  
ウシオ電機株式会社  
代表取締役社長(環境委員会委員長)

## 2005年度の取り組みと長期ビジョン

経済・社会・環境に総合的に配慮したサステナブル経営戦略をグループ会社を含め、より広く浸透させることを引き続き推し進めます。



## 持続可能な社会の実現を目指すための2010年環境ビジョン

ウシオグループは、2010年を目標にSCM(サプライチェーンマネジメント)視点で「エネルギー」「廃棄物対応」「スーパーグリーン製品対応」「環境リスク対応」を柱に活動を展開し、事業活動と一体化させた環境経営を目指します。

そのために、以下の3つの重点項目で「攻め」と「守り」を明確化し施策の展開を推進します。

- 環境活動と経営の一体化による環境生産性の向上(攻め)
- 環境に配慮した製品性能向上活動の拡充(攻め)
- 製品・生産活動の環境リスクマネジメントの強化と低減(守り)

## ウシオのCSR

ウシオは、環境問題・雇用問題・消費者問題・人権問題・企業統治・コンプライアンス・リスクマネジメント・情報開示・企業倫理・地域貢献などへ、CSRという横串を通す体制をもって、社員一人ひとりの誠意ある地道な取り組みが、「社会に対する企業責任」を果たすことにつながる、つまり、社会と企業の持続的発展に貢献できると考えています。

ウシオは経済(財務)側面だけではなく社会側面、環境側面においてもCSR活動を通じ『社会に選ばれる企業』を目指し続けます。

## ウシオのCSRの考え方

- ・法令を順守し、法令以外の一般的な規範、公序良俗を守り、社会に対して責任ある事業活動を行います。
- ・環境保全の取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。
- ・お客さまや株主をはじめとするステークホルダーの方々との対話を推進し、社会からの信頼を得よう努めます。
- ・適切な情報開示を行い透明度の高い経営を実施し、社会からの信頼を得よう努めます。
- ・地域社会の一員として、地域に貢献するとともに、地域社会との共存共栄に努めます。
- ・社員の人格と個性を尊重し、働きやすい職場環境の整備に努め、会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させます。

## 環境リスクマネジメント

CSRの実践には、企業活動がもたらすさまざまな環境リスクの把握とその低減のための活動を推進し、企業全体での危機管理体制の強化を図ることが必要不可欠です。近年増加傾向にある企業の不祥事などからも、その重要度を計り知ることができます。ウシオは、2005年8月に「環境リスクマネジメント委員会」を発足し、環境リスクマネジメントシステムの体制強化をグループ会社とともに推し進めています(P24参照)。

## 情報公開(アスベスト使用状況)

ウシオ電機管理部門にあるコンプライアンス委員会と環境マネジメント統括室が共同で、アスベストに関する調査を実施しました。「アスベスト使用製品への対応方針」を打ち出し、対象製品(過去使用)の情報を開示し、また組みこみでご使用いただいているお客さまには個別フォローを行いました。

国内の各グループ会社においても共通の調査方法で実施した結果を、グループ会社一斉にホームページ上で公開し、お客さまなど関係者に取り扱いなどの注意を呼びかけることができました。

また、製品だけでなく建物や人の健康面についても確認し問題がないことを把握しました。

このように本社組織を中心としたコーポレートガバナンス機能を発揮することがCSR実践の一環となると認識しています。



<http://www.ushio.co.jp/eco/pdf/asbestos1220.pdf>でご報告しています。

## グループ一体での展開体制

ウシオは、国内・外のグループ会社のトップが一堂に会する「グループ環境会議」を2003年度から毎年開催し、グループとして進むべき方向や、アスベスト問題を含むさまざまな課題について議論するとともに、共通認識化を図るなどグループ全体のコミュニケーションの向上に努めています。

第3回グループ環境会議(2006年2月開催)では『連結環境元年』と位置づけた2005年度の取り組みを総括し、対象全グループ会社のベクトルを一致させる「環境経営基盤(グループ環境ガバナンス)の強化8項目」を再確認しました。EMSの構築に向けた展開(P21参照)など、ウシオ環境行動計画目的・目標の達成に向けた取り組みをトップダウンで実践しています。

### 環境経営基盤 (グループ環境ガバナンス)の強化 8項目

1. 環境活動は全グループ会社で実施する
2. ウシオの環境行動計画はグループ全体の目標とする
3. 国内はISOで活動し、海外はISOあるいは自主的なEMSで活動する
4. 製造系の会社はISOで活動する
5. 環境活動の実施状況を内部監査でチェックする(相互監査の実施)
6. 環境コミュニケーションは環境マネジメント統括室を通じて一本化する
7. 環境パフォーマンスデータ、環境会計などの環境情報を公開する
8. グループ環境保全活動を支援する



第3回グループ環境会議:グループ一体での活動を再認識

また、ウシオグリーンネットワーク(UGN)活動では、グループ15社38名(2005年度)で構成し、UGNニュース(P18参照)の定期発行や環境交流会の開催などを通じ、環境情報の共有化やコミュニケーションの円滑化をはじめ、ウシオグループ全体で環境の取り組みを具現化しています。こうした取り組みが、連結環境経営実践の原動力となり、グループガバナンスの一端を担っています。

## 社会に向けた取り組み

### 〈チーム・マイナス6%へ参加〉

ウシオ電機は、企業市民の一員として、地球温暖化防止運動の国民的プロジェクトである「チーム・マイナス6%」に参加。省エネ推奨運動のひとつとして室温の設定変更、軽装化、不要電灯の消灯運動などを全社で実施しました。また、その取り組み内容を、社内報やホームページなどで社内外に情報公開・啓発しています。さらに、「エコプロダクツ2005」環境省ブースでもその活動の一端を紹介しました。2006年度も引き続き、運動の趣旨に沿った取り組みを実施していきます。



夏のお知らせポスター



冬の本社エレベーターホールでのお知らせ

### 〈ブラックイルミネーション(播磨事業所)〉

2005年6月19日、20時～22時の夜間2時間、日本各地で『ブラックイルミネーション2005』が開催され、播磨事業所でもこのCO<sub>2</sub>削減キャンペーンに参加しました。

当日は播磨事業所とJR姫路駅前にある看板照明の消灯を実施。短時間でしたが、この消灯で60kWh、CO<sub>2</sub>削減に貢献しました。毎年実施されているイベントですので、今後も継続的に参加していく予定です。



短時間ですが60kWhのエネルギー削減

### 〈ウシオ育英文化財団〉

人材育成、学術・文化の発展に寄与することを目的に、ウシオ電機の創立30周年を記念して、1994年に設立。ウシオ電機とウシオ電機創業者で現会長の牛尾治朗からの寄付を財源にして、学生への奨学金や学術研究・文化活動の助成などの事業を行っています。

2005年度は、大学院生(留学生を含む)15名、大学生16名、高等専門学校専攻科生10名にそれぞれ奨学金を支給し、3件の研究助成を実施。そしてさまざまな分野で活躍されることを期待された19名の卒業生を実社会へ送り出しました。本財団では昨年までの11年間で、奨学生222人と研究助成14件に支援を行ってきました。



会長と談笑する留学生



2005年度卒業生

## CSRコミュニケーション

CSRでは、「企業活動はトリプルボトムライン(経済側面・社会側面・環境側面)からの視点が重要」とわれています。これら3つの側面に対し、バランスを持って取り組まなければなりません。

こういった内容を含むウシオの「企業メッセージ」を、あらゆる形でステークホルダーの方々にお伝えし、情報開示をしていくとともに、社会・環境において積極的な対応をしていながら経営にフィードバックさせていくよう努力しています。

## 情報を多くの方に公開するために

### 〈出版物〉

環境報告書を作成してから3年目を迎えた昨年は、「経済報告」「社会報告」「環境報告」を盛りこみ、『ウシオサステナビリティレポート2005』として内容の充実を図りました。また、インベスターズガイド(年1回発行)や事業報告書(年2回半期ごと)などの出版物においても、環境への取り組みを掲載しています。

これら報告書はコミュニケーションの最重要ツールとして位置付け、わかりやすい情報開示に努めています。



環境報告書からサステナビリティレポートへ…

### 〈ホームページ〉

ウシオ電機ホームページにも環境コーナーを設け、幅広いステークホルダーの方々に向けて情報開示を行っています。ウシオが行っている環境活動報告はもちろんのこと、2005年は『みんなでできる環境保全』というコーナーを設け、家庭でもできる環境保全のヒントを掲載しました。



ホームページ

上記以外にも色々な視点から環境活動を社内外で行っています。

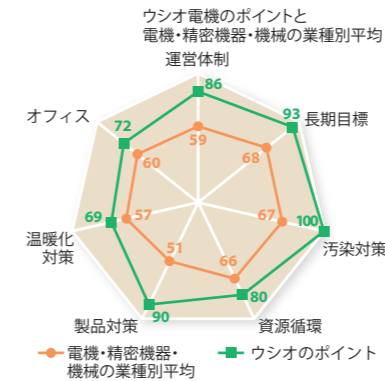
(P18～19参照)

## 外部からの評価をいただいています

①ウシオは、客観的な立場にて評価をいただける調査への協力、環境関連の賞に応募をしています。これら結果の一つひとつを誠実に受け止めながら、より良い経営活動に活かしていきます。

### 〈調査〉

◎(株)日本経済新聞社主催第9回「企業の環境経営度調査」にて製造部門56位に。(第8回148位からの大幅ランクアップ) また、海外拠点ランキングでは、47位にランクインしました。



### 〈環境関連の賞〉

外部専門機関の客観的評価を環境経営のレベルアップに活かすために、2005年度は以下の環境関連の賞に応募しました。顕著な結果は得られませんでした、「一歩一歩であるが前進している」といった前向きな評価もいただきました。

- ◎フジサンケイビジネスアイ主催 第15回「地球環境大賞」
- ◎(財)地球・人間環境フォーラム主催 第9回「環境コミュニケーション大賞」
- ◎(株)日本システム規格社主催「環境マネジメント大賞」
- ◎三重県主催 第4回「日本環境経営大賞」
- ◎(株)東洋経済新報社 第9回「環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞」

②ウシオ電機は、代表的な社会的責任投資(SRI=Socially Responsible Investment)の指標である「FTSE4Good Global Index」に2004年から3年連続して選定されました。加えて2004年9月にあらたにスタートの指標銘柄「Japan Index」にも選定されています。

これは英国のFTSE社が「環境基準」「社会性&ステークホルダー基準」「人権基準」を満たす企業を選定し、主に投資家に向けて情報公開しています。

ウシオ電機は国際的に認められた一連の社会的責任基準を満たす日本企業として外部評価をいただいています。



FTSE4Good Index Series 認定証

③(株)日本システム規格社「月刊アイソス」4月号にて、ウシオ電機本社の環境マネジメントシステムに関する記事が掲載されました。これは上記の「環境マネジメント大賞」に応募したことがきっかけとなり、経営に貢献するマネジメントシステムが評価され取材を受けたものです。



取材風景



月刊アイソス

## これからの取り組み

ウシオは環境分野に重点をおいた取り組みからスタートさせ、CSR活動へ展開してきました。今後も経済・社会・環境の各側面をバランスよく配慮し、企業の社会的責任を果たす経営への取り組みに努めてまいります。

## コンプライアンス

コンプライアンスは、一般的には「法令順守」という意味で使われていますが、ウシオではもっと広い意味で、CSR(企業の社会的責任)の一要素であると考えています。

企業が持続的に発展していくためには、単なる「法令順守」に止まるのではなく、さらにより高い「倫理観」を持ち、「消費者・取引先・株主・社員・社会」などさまざまなステークホルダーの方々の期待に応えていくことなくして、実現し得ないものです。

この考え方・精神は、創業以来「企業理念」として掲げ(P5参照)企業経営の根幹としています。

## コンプライアンスの考え方

ウシオにおけるコンプライアンスとは、企業理念・行動指針を実践し、『良き企業市民』としての社会的責任を果たすための実践活動の基本となる活動を言います。

そのため、国際条約などの国際ルールおよび国内法令を順守するために定める社内規範・規程を、日常業務活動の基本とし、周知徹底を図りその実践と定着を目指し『コンプライアンス委員会』を設けその実践と啓発に努めています。

## コンプライアンス運営体制

ウシオ電機は、コンプライアンスに関する重要事項を審議するため本社管理担当役員を委員長(責任者)に、本社各部門長および顧問弁護士を委員とするコンプライアンス委員会を設置して活動を行なっています。

コンプライアンス委員会は、コンプライアンス体制の確立、浸透、定着を図るため、「組織と権限」および「その役割と責任」を明確にし、法令およびその精神を順守し、公正かつ透明な企業行動を通じて、良き企業市民としての責任を果たすための審議体として、社員個々の意見受付・相談窓口として活動しています。

## 2005年度の主な取り組み

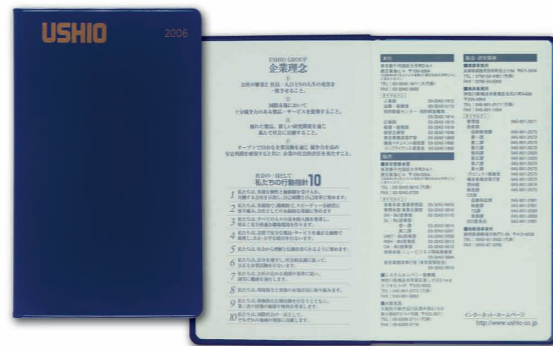
- ①ウシオ電機は、個人情報の保護に関する諸法令を順守し、個人情報を適正に取り扱い、保護していくための「個人情報保護方針」を定め実践しています。
  - ②輸出管理に関する法令の改正に対応した社内規程の見直しを図り、キャッチオール規制に対応した輸出管理社内規程を有し管理している企業として、経済産業省『輸出管理社内規程(CP)を作成し実施している企業名の公表』(<http://www.meti.go.jp/policy/anpo/index.html>)のホームページに引き続き公表しています。なお、今年の2月には自己管理チェックリストの実施状況について、経済産業省の立ち入り検査において「良く管理されており指摘事項は無い」との評価を受けております。
  - ③環境マネジメント統括室と連携し、アスベストに関する調査を実施。対象製品(過去使用)の情報を、グループ会社一斉にホームページ上で開示しました。(P7参照)
- 上記以外にも、商法や証券取引法などの諸法令改正に伴い、内部情報管理などに関する規程類の見直しを図りました。

## 非定常時、緊急時も「良き企業市民」であるために

ウシオ電機コンプライアンス委員会は、より一層のコンプライアンス体制の確立とその実践を目指し、みなさま方からより一層の信頼が得られる企業を目指しています。

企業の事業活動は、法律や規則を守り、定められた手順や指示された手順に従い、業務を遂行できる環境ばかりではありません。このことは、単に法令順守するためのみのコンプライアンス体制の確立だけでは困難です。

日常の事業活動における非定常時および緊急時に『良き企業市民』としてどのように行動すべきかを常に考え、常に議論し、これを行動規範として予め定め、非定常時、緊急時にそれらが行動として整然と実践できる企業を目指しています。万一の場合を想定したBCM(事業継続管理)の行動指針にもつながるものだと考えています。



いつでも確認できるよう、社員手帳に「企業理念」「行動指針」を掲載

### 担当者メッセージ

コンプライアンス委員会  
南雲 秀夫

コンプライアンスは、「自然と人類の共存繁栄」を確保するため、現代人類に課せられた課題ではないだろうか?企業がコンプライアンスを文化の域にまで高めているかどうか、企業の価値判断基準となる日がやってくるかもしれない。



## Question 経営基盤をどのように強化していきますか?

## Answer 「新・中期ビジョン」を策定し、その達成に向けて、積極的に事業を進めます。

当期、ウシオグループは、激変する国際市場に即応していくために、2004年に策定した中期ビジョン(3カ年計画)を見直し、あらたに2008年度を最終年とする「新・中期ビジョン」を策定し、以下の主力事業に注力してまいります。

### デジタルシネマ映写機の普及促進

昨年、北米で提案した「デジタルシネマ普及促進プログラム」は、シネマ事業を構成する制作・配給、映画館、シネマ映写システムメーカー(ウシオグループ)の3者が、ともにメリットを得るビジネスモデルで、各業界の主力会社が続々と参画。

デジタルシネマ映写機の台数を飛躍的に増加させるとともに、設置やメンテナンスなどの関連ビジネスの拡充も、さらに推進してまいります。

### 次世代半導体の露光用光源「EUV」の実用化

日・米・欧が先を競って開発を進めている半導体露光用次世代光源「EUV」の日本国家プロジェクトに、ウシオグループとして設立当初から参画する一方、昨年、欧州で先行するエクストリーム社(独)をグループに迎えました。来年の商品化に向けて、開発を加速していきます。

### 医療分野へ「光治療」と「光検査」

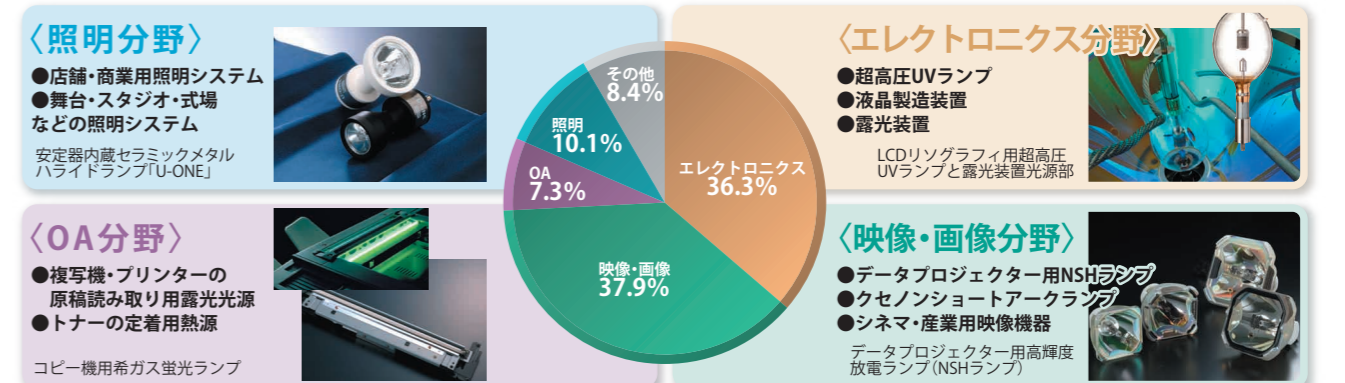
「光治療」として、光照射による「皮膚疾患治療器」の商品化を、「光検査」では、「血液検査装置」の実用化を加速していきます。

### ウシオグループのビジネスフィールド

ウシオは、産業用ランプの開発を柱にした光源メーカーとしてスタートし、独自の光学技術の開発・応用にも努めユニットや装置、システム、さらには光のソリューションを提供する「光創造企業集団」へと発展してきました。

また、お客さまのニーズにスピーディーにお応えするため、分社化・グループ化を積極的に推し進めるとともに、その有機的な連動を図っています。

#### 【事業概要】



これら2つが医療分野事業の柱となるよう、組織体制も並行して構築していきます。

### 復活するデータプロジェクター市場の臨場体制

成長の復活が見込まれるこの市場に即応するために、事業の再構築をはかります。他社に先んじて商品のラインナップを充実させ、ユーザー層を広げていきます。一方、中国での全工程生産を実現し、シェアアップと利益の拡大に努めます。

### 需要増が進む「光の装置」の新工場の建設

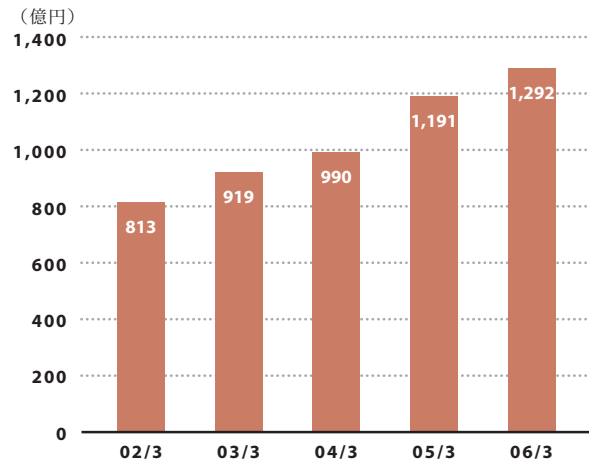
来春の稼動をめざし、御殿場事業所に新工場を建設。この新工場は、液晶・半導体などのエレクトロニクス分野で、需要が増大する「光の装置」の生産スペースで、技術部門をも集約して、開発・生産の高い効率、スピードアップを目指します。

### 高品質の製品・サービス提供と光応用領域の拡大で、企業価値の増大へ

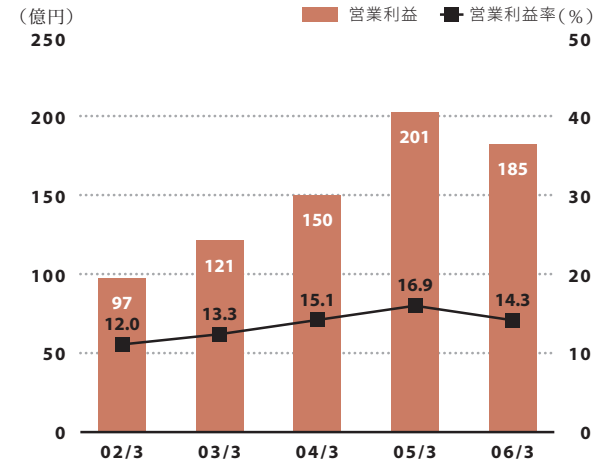
ウシオグループは、高品質の製品・サービスの提供、光の応用領域の拡大をテーマに、「新・中期ビジョン」の達成はもとより、事業基盤の一層の強化、企業価値の増大に努めてまいります。

### 主な経営指標の推移

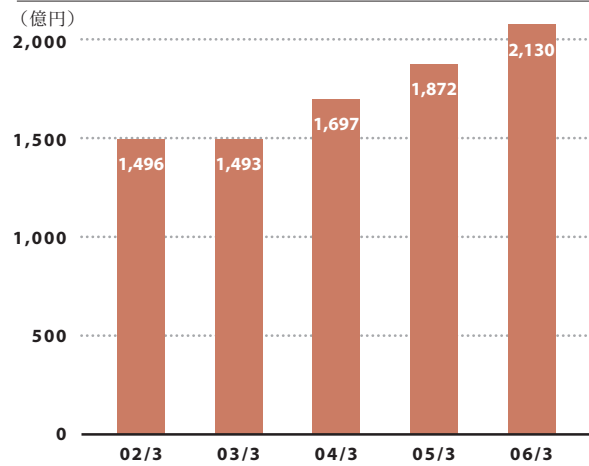
#### 連結売上高



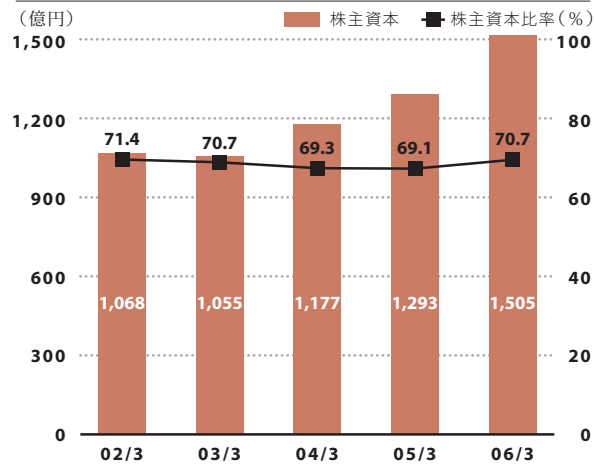
#### 連結営業利益／営業利益率



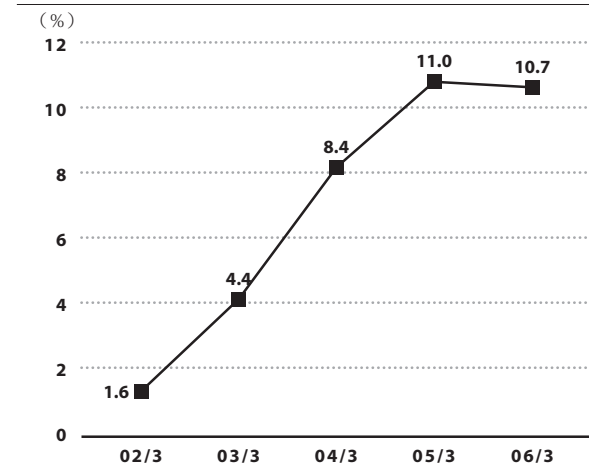
#### 連結総資産



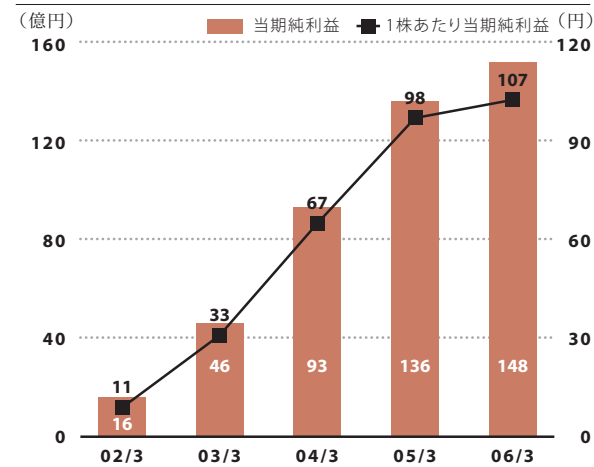
#### 連結株主資本／株主資本比率



#### 連結株主資本利益率 (ROE)



#### 連結当期純利益／1株あたり当期純利益



### 連結決算

#### 連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

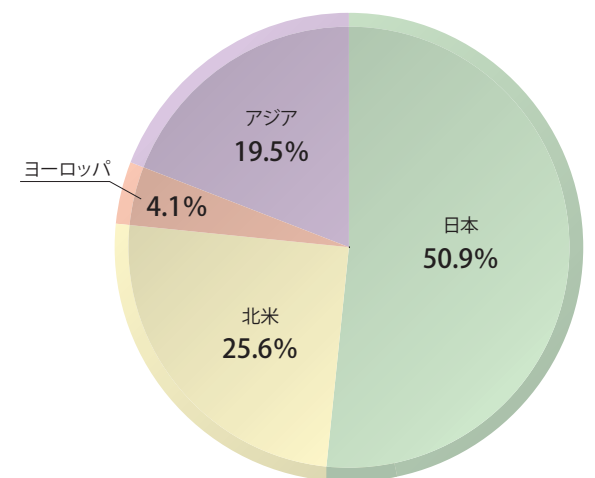
科目	第43期 (2006.3.31現在)		第42期 (2005.3.31現在)	
	第43期	第42期	第43期	第42期
<b>(資産の部)</b>				
流動資産	102,875	94,308	<b>(負債の部)</b>	
現金および預金	22,182	24,636	流動負債	41,006
受取手形および売掛金	39,793	35,622	支払手形および買掛金	17,417
有価証券	5,539	3,399	短期借入金	10,435
たな卸資産	26,511	22,431	その他	13,151
その他	8,848	8,219	固定負債	20,746
固定資産	110,151	92,942	長期借入金	3,090
有形固定資産	34,200	30,793	繰延税金負債	15,447
建物および構築物	14,140	11,312	その他	2,208
機械装置および運搬具	5,899	4,442	負債合計	61,753
土地	8,785	8,198	少数株主持分	740
その他	5,374	6,840	<b>(資本の部)</b>	
無形固定資産	2,325	2,720	資本金	19,556
投資その他の資産	73,625	59,428	資本剰余金	28,371
投資有価証券	70,220	56,730	利益剰余金	79,350
その他	3,404	2,697	その他有価証券評価差額金	24,611
資産合計	213,027	187,251	為替換算調整勘定	539
			自己株式	△1,895
			資本合計	150,533
			負債、少数株主持分および資本合計	213,027
				187,251

#### 連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	第43期 (2005.4.1~2006.3.31)		第42期 (2004.4.1~2005.3.31)	
	第43期	第42期	第43期	第42期
売上高	129,284	119,159		
売上原価	85,025	75,845		
売上総利益	44,258	43,313		
販売費および一般管理費	25,757	23,124		
営業利益	18,501	20,189		
営業外収益	5,518	2,998		
営業外費用	812	780		
経常利益	23,207	22,407		
特別利益	101	84		
特別損失	138	901		
税金等調整前当期純利益	23,170	21,591		
法人税等	8,066	7,694		
少数株主利益	209	262		
当期純利益	14,895	13,634		

#### 所在地別売上高構成比



※数字は全て表示数値未満の位を切り捨てて記載しています。



**Question**  
お客さまによろこばれる品質やサポート体制は、どのように実現するのですか？

**Answer**  
常にお客さま視点を失わず、開発~生産~出荷~サポートまで一貫体制をとり、お客さまの満足につなげます。

活動の指針と目標

お客さま満足度の向上

- グローバルな視野で品質保証体制・顧客サポート体制の構築を進めます。
- お客さまの声に基づいた魅力的な製品実現のため、お客さま視点で品質を見つめ、品質改善へフィードバックをかけます。

活動の概要

海外拠点のCS能力拡充

〈ランプカンパニー〉

有害化学物質の社内検査体制の整備も合わせ、クリーンな環境下でもの作りができる工場環境の整備を行いました。さらに、ウシオ海外現地法人や関係会社を含めたグローバルな視野で品質保証体制・お客さまサポート体制の推進をしています。

これらは、小集団活動による改善意識の向上と改善の推進、新システム(購買・設計・生産・出荷までを総合的に管理する業務システム)稼働による品質改善環境の強化などから実現させています。

〈システムカンパニー〉

海外のお客さまへのサポートのため、韓国・台湾に加え中国にCS部門を設置。一部の装置製品は国内外一貫したサポートができる体制を構築しました。

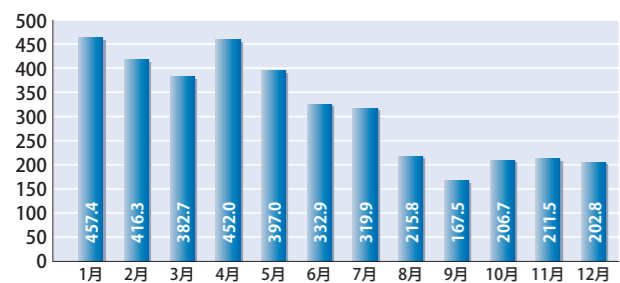
お客さまのご要望・ご意見・不具合の情報は、データベースに一括保存・管理し、製品開発・サポートに活用しています。一部の装置製品分野では、これを一定の式で積算した数値をお客さまの満足度の指標として活用しています。

2005年度実績・具体事例

お客さま満足度の数値化など

- ①お客さま要求にどの程度迅速にお答えできているのかを測るために、一部の製品群で残件ポイントをグラフ化。残件ポイントとは「お客さまのご要望1件に対しサポートが完了しなければ、1ヵ月経過につき1ポイント加算」するものです。

2005年残件ポイント推移 (単位:ポイント)



2005年1月に457ポイントあったものが、12月には半分以下の203ポイントまで低下。数値化することにより、お客さまの満足度向上へ尽力した成果が見えるようになりました。

- ②播磨事業所では、A・B棟の竣工に引き続き、2005年11月に新棟(C棟)が竣工し生産スペースの拡張と生産環境のクリーン度がさらにアップしました。



C棟

- ③設備保全から人作りまでをトータルで進めるTPM活動を2005年12月にキックオフしました。また2006年度の組織改正で「ものづくり開発室」を新設し、設計からラインでのもの作りまでを支援する体制を強化しました。



TPMキックオフ

- ④お客さまの海外展開に併せ、アジアのウシオ現地法人(生産拠点と販売拠点)と定例会議を開催。また、これらアジアの拠点との人的交流も2006年度の組織改正では積極的に進めました。

- ⑤有害化学物質の購入部材や製品への含有有無を非破壊で分析できる蛍光X線分析装置を導入しました。

- ⑥小集団活動報告会は、昭和48年のTQC導入以来120回を数え、小集団による改善活動を継続しています。



小集団報告会

- ⑦新システムによる品質情報の一括管理を進めています。

これからの取り組み  
品質+環境マネジメントシステム、中国拠点のさらなるCS能力拡充へ

〈ランプカンパニー〉

品質と環境のマネジメントのあり方について検討を進め、お客さま本位の品質+環境マネジメントシステムを指向します。

〈システムカンパニー〉

中国CSの能力をさらに拡充し、韓国・台湾と同等のレベルまで引き上げます。全装置製品についてお客さま満足度の指標を導入し、定量的に管理します。

担当者メッセージ

ランプカンパニー 品質マネジメント推進室  
成田 光男

環境も品質の一部であるとの考えに立ち、お客さま満足度のさらなる向上に向けて邁進いたします。

システムカンパニー CS部  
菅野 孝幸

お客さまの視点で、品質向上と製品サポート能力の向上をグローバルな体制で構築すべく活動を推進いたします。



**Question**  
社員の発明をどのように評価し、保護していますか？

**Answer**  
研究開発活動を活性化し、発明の創出を奨励し、優れた発明を保護する体制を従来から採用しています。

活動の指針と目標

活性化・奨励・保護の三本柱を維持

従来からのウシオの特徴である、研究開発活動を活性化し、発明の創出を奨励し、優れた発明を保護するという体制を維持します。

活動の概要

発明報奨に関する社内規程を改正

2005年4月に特許法が改正され、発明報奨制度がより明確化されたことに合わせて、発明報奨に関する社内規程を見直し、新たに、透明性・公平性の高い「産業財産権管理規程」を制定しました。

2005年度実績・具体事例

12日間延べ16回の説明会を開催、イントラネットでの公開

新しい社内規程の制定にあたり、発明者に新しい制度を十分に理解してもらうために、2005年夏には12日間延べ16回にわたり説明会を開催し、質問や疑問などを受け付けました。産業財産権管理規程は2005年4月付けにて発効し、社員が閲覧可能なウシオ電機イントラネットシステムのウェブサイトで公開しています。

産業財産権管理規程によって制定された新しい発明報奨制度の一番大きな特徴は、登録特許全件を審査して実績報奨金が支払われる制度である点です。そのほか、他社へのライセンスによる実施料収入に対する実績報奨金の支払いを行うことを明記したこと、海外の実績も含めて実績報奨金の支払い対象とすることを明記したこと、そして、支払われた報奨金に対し、発明者が異議を申し立てることができるようにしたことが、特徴として挙げられます。



説明会風景

これからの取り組み

知的財産保護の活動を発明に対するインセンティブに

2005年度は、新しい制度を運用していく初めての年度でしたが、多くの関係部署の協力のもと、発明評価作業を無事終了。その結果、ランプや露光装置に関する特許が従来よりも高い評価を得ました。

今後は、発明報奨の評価結果を発明者に対し開示するとともに、可能な範囲での社内公表を行っていきます。この活動が、発明に対するインセンティブとなり、優れた発明が生まれ、社員が希望を持って働ける職場になるよう努力してまいります。



特許公報

担当者メッセージ

知的財産権部  
古家 智穂

発明者の財産である発明に対し、貢献する形で仕事ができ、大変光栄に思っています。これからも、知的財産保護の活動を通じて発明者の権利を守る会社作りに取り組んでいきます。



**Question**  
ウシオが誇れる社員とのかかわりとは？

**Answer**  
創業以来、社員一人ひとりが  
やりがいを持って働ける企業を目指しています。

活動の指針と目標

企業理念にもとづく  
社員とのかかわり合い

ウシオグループでは創立40周年を迎えた2004年度以降を「第2の創生期」と位置付け、新しい企業理念を制定しました。新企業理念の筆頭には「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」を掲げていますが、これは創業以来一貫して目標としてきた基本姿勢でもあります。

【グループ社員の状況】

ウシオグループでは、事業の柱である「光」マーケットの拡大と成長とともに、世界各国・各地域での事業分担化を進めています。2006年3月現在では、国内のウシオ電機本体を中心に合わせて4,390名の社員が働いています。

グループ社員数(2006年3月31日現在)

ウシオ電機本体	1,589名
国内グループ計	518名
海外グループ計	2,283名
合計	4,390名

活動の概要

会社の繁栄と社員一人ひとりの  
人生の充実を一致させるために

会社の持続的な成長・発展のためには、社員一人ひとりが持てる能力を十分に発揮することが不可欠です。そのためには個々の能力開発とともに、安心して働くことができる環境を提供することが不可欠であると考えます。

ウシオでは、一人ひとりの健康支援と安全な職場環境作りを努めるとともに、社員およびその家族が安心して生活できるよう、各種制度の整備・充実を図っています。

また人材育成においても、各種研修・教育を推進するとともに、自己啓発を積極支援しています。特に近年では、海外展開の拡大にともない、グローバルな視点での能力開発にも取り組んでいます。

2005年度実績・具体事例

自立した社員の育成を目指した  
人材育成

社員の向上心をバックアップするため、ウシオビジネススクール(UBS)では、多様な価値観、高度な専門知識、グローバル化、情報化に対応したプログラムをサポートしています。

各人のキャリアアップ、組織を



新任役職者研修

通じて自己実現できる人材の育成を支援します。



安心して仕事ができる  
環境・制度の整備

仕事と家庭の両立支援や次世代育成、母性保護とともに、社員に万一のことがあった場合の家族への生活支援など、安心して仕事ができる環境・制度の整備と充実を図っています。

また、少子高齢化を背景としたエイジレス社会進展へ対応するために、定年後の再雇用制度を設け、定年後の就業ニーズにも応えています。

仕事と家庭の両立支援、次世代育成、母性保護

- 育児休業制度  
最長、子が2才に到達するまで休業できる制度です。常時20名以上、これまでに210名の社員が利用し、100%が復職しています。
- 介護休業制度  
家族の介護のため、1年間休業できる制度です。
- 短時間勤務制度  
育児や介護のため、毎日の勤務時間を短縮(6時間)する制度です。
- 積立有給休暇制度  
未行使の年休残日数を積み立てて、子の養育や家族の看護・介護の際に利用できる制度です。
- 遺児育英資金制度  
万一、社員が在職中に死亡した場合などに、最長、子が24才に到達するまで育英資金を支給する制度です。
- その他の制度  
育児・介護のための深夜業や時間外勤務の制限措置、妊娠通院休暇、妊娠障害休暇、配偶者出産休暇など

定年後の再雇用制度

健康で働く意欲・能力・体力があり、定年後も引き続き就労を希望する場合、希望者全員について定年後再雇用する制度を設けています。

- 組合員層：シニアパートナー制度
- 管理職層：シニアエキスパート制度

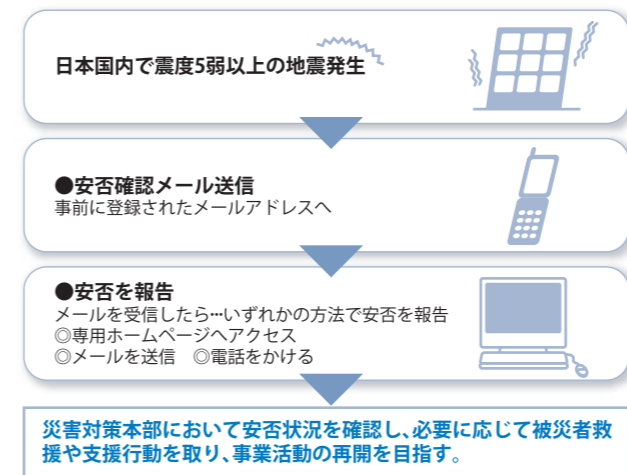
災害発生時における社員の安否確認

災害発生時に、社員やその家族の安否を迅速・確実に把握するための一手段として、2005年12月より「安否確認システム」を導入しました。

日本国内で震度5弱以上の地震が発生した際、社員が事前に登録したメールアドレス(携帯電話またはパソコン)に安否確認のメールが送信されます。メールを受信した社員が安否報告を行うことで、社員の安否情報を集約できます。

また、会社が行う社員の安否確認だけでなく、福利厚生の一環として導入したオプション機能「あんぴくん」では、社員が事前に登録した家族専用のプライベートな掲示板にアクセスすることで家族の安否確認ができます。

災害発生時の流れ



セキュリティ対策(入退室システム)

2004年度、セキュリティ対策の一環として「入退室システム」を導入し、ICチップ内蔵の社員証・入門証による入室の制限ならびにログ取得の環境整備を終了させました。2005年度はさらに、人事システムとの連携により、以下の実現を目指しました。

- (1) リスク管理 …… 社員、または登録者以外の不審者などを入室させない。入退室情報の記録(履歴)を収集・保管する。
- (2) セキュリティ管理 …… 社員でも入室可能なエリアを限定する。
- (3) 勤怠管理 …… 出退社時刻情報を人事システムに連携し、勤怠管理の一助とする。

2005年度の主な取り組みは以下の通りです。

1.各事業所への水平展開について

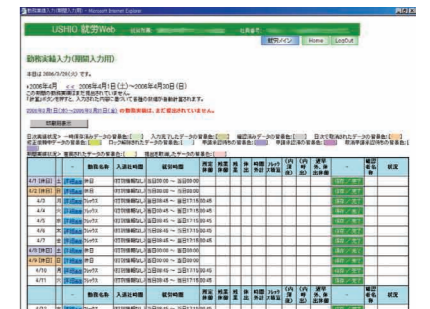
2004年度に稼動した本社・東京営業本部・播磨事業所の新棟2棟に引き続き、横浜事業所・横浜営業部門・御殿場事業所新棟・大阪支店・播磨事業所 新棟1棟に展開しました。

2.人事システムとの連携について

本社・東京営業本部にて、社員証を利用した入館・退館時刻を記録するシステムを稼動しました。

このシステムにより取得したデータは、自動で人事システムのデータベースに送られ、社員が勤務情報を入力するweb画面に入退社時間として反映されるようになっています。

社内滞在時間が明確になることで、時間管理の一助となっています。



情報漏洩防止管理

近年、パソコンデータが大量に外部に流出する事件が増加しています。

ウシオでは、その対策の一環として業務上使用するUSBメモリの統一とルール徹底を図りました。個人所有のUSBメモリの持ち込みを禁止し、パスワードによるアクセス管理と保存したデータを自動暗号化する会社指定のUSBメモリに使用制限をすることで、万一の紛失や盗難などによる情報流失リスクに備えました。

これからの取り組み

人事制度委員会を設置し、  
より発展的な制度構築を行います。

2006年4月1日付で、全社組織として「人事制度委員会」が発足しました。各事業所の代表で組織することにより、各職場とそこに働く社員のニーズを反映した、より発展的な制度を構築し、企業理念の一層の浸透を図ります。

また、2005年度から取り組んでいる「次世代育成計画」などを中心に、今後とも企業活動を通じた社会への貢献を推進してまいります。

担当者メッセージ

人事部  
米田 誠



企業に対する社会要請と、企業理念である「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」を念頭に、業務を通して会社と社員のより良い関係と成長をバックアップしていきたいと思っております。

**Question**  
ウシオの社会コミュニケーションの特徴は何ですか？

**Answer**  
社内外を問わず、いろいろなコミュニケーション手段を使い、広く情報公開しています。

**活動の指針と目標**  
多彩なコミュニケーションの実施

環境報告書の発行、HPでの情報公開、環境関連の賞への応募など(P9参照)の他にも、内部・外部に向けて積極的な活動に取り組んでいきます。

**2005年度実績・具体事例**

環境パネル

(財)社会経済生産性本部主催の生産性シンポジウム「生産性パネル展」や「セミコンジャパン」、「JPCAショー」などでウシオの環境活動をメインとしたパネル展示を行いました。



生産性パネル展

環境ポスター

社員の環境教育として、また来社されるお客さまへのメッセージとして、受付やトイレ、駐車場などに環境ポスターや看板を設置し、PR活動を行っています。特にウシオ蘇州では、定期的に事業所独自で社内報やポスターを作成し、積極的な社員の環境教育を行っています。



「水を大切に」のポスター

お取引先さまなどとの環境コミュニケーション

廃タイヤリサイクルを行っている新日鉄(株)広畑製鉄所さまや(株)カネカ高砂工業所さまの環境施設訪問などの異業種交流の他、前年に引き続き環境先進企業の(株)富士通沼津工場さまを見学させていただき情報交換をしました。



富士通沼津工場さまを見学

さらに、ウシオフィリピンではサプライヤー向け自社の環境の取り組みを説明。横浜事業所ではEA21※の講習会などを開きました。



サプライヤーに向けた説明

今後も環境交流を盛んに行い、さらに活発な活動ができるよう努力していきます。

※EA21とは、エコアクション21の略称で、中小企業版ISO14001とも呼ばれ国内の広範な事業者を対象として環境省が策定した環境への取り組みを効果的・効率的に行うシステム

グループ間での環境コミュニケーション

グループ環境ガバナンスの強化の一貫として、国内外問わずグループ相互コミュニケーションをしています。EMS構築のための説明会や環境情報の交換など、活気ある交流が随時、各所で行われています。



海外との環境交流も実施

UGNニュース

UGN(P7参照)のメンバーから寄せられた、環境法規制や環境活動状況など環境に特化した情報を、国・地域をまたいで月1回タイムリーに発行しています。



ニュースレターとしてタイムリーに発行

GREEN TIMES(ウシオ電機社内報「USHIO POWER」)

毎月発行する社内報には環境コーナー「GREEN TIMES」を設け、社員はもちろん家庭での啓発を目的とした環境特集も定例掲載しています。こういった一つひとつの啓発活動の継続を大切に、引き続き『環境の輪を広げる活動』を展開していきます。

有志の活動ですが、ボランティアを行っている社員にもこのコーナーに参加してもらい、活動報告を掲載しています。ウシオは個人の環境活動も応援しています。



GREEN TIMES



森林ボランティア

担当者メッセージ

環境マネジメント統括室 田代 文子



環境先進企業の見学は、日頃の活動に大変参考になります。社内外問わず、色々な方法での情報発信・啓発活動を盛んに行い、今後もより良いコミュニケーション作りをしていきます。

**Question**  
社会貢献活動は、どのようなことを行っていますか？

**Answer**  
ウシオは地域に密着した活動を行い、社員一人ひとりが地球市民として活躍しています。

**活動の指針と目標**  
各社独自の活動に加えてグループ全体の活動も展開

グループ会社独自で地域社会に密着した活動を行うとともに、ウシオとして社会に貢献できるよう努めます。

**2005年度実績・具体事例**

地域清掃活動

多くの事業所、グループ会社で地域清掃活動に参加しています。

(御殿場事業所)

工業団地と御殿場市の共同活動として毎年行われている「駒門工業団地企業連絡協議会一斉清掃活動」に参加。2005年は御殿場事業所社員だけでなく、他事業所にも声をかけて活動しました。



地域環境美化に貢献

(ウシオライティング)

福崎町工業団地にて毎年恒例となっている『ゴ・ミ・ゼロの日(5月30日)』にて、2005年も工場敷地周辺の清掃と植栽を実施しました。新入社員5名と中国研修生12名で環境研修の一環として実施しました。



清掃活動で汗を流しています

緑地整備と植栽の剪定(ウシオライティング)

構内周辺にある植栽を、地元「シルバー人材センター」の植木職人と協力。自社の環境に配慮した緑地整備とともに、地域と密着した活動に取り組んでいます。



地域景観を考慮することも活動の一環です

小学生工場見学会(播磨事業所)

兵庫県中播磨県民局主催で「モノづくり体験ツアー」を毎年開催していますが、2005年も地元の小学生を対象に工場見学会を実施しました。保護者を含めて30名の参加者にはもの作りの素晴らしさや大切さとともに、環境保全に取り組む企業の姿勢を伝えました。

地域の環境保全運動に貢献  
(USHIO AMERICA, INC. OREGON Operations Division)

オレゴンにあるポートランドゼネラルエレクトリック社は、風力発電の研究・開発を行っており、地元UAIオレゴン工場も毎月同研究開発に寄付を行うことで環境保全推進活動に参加。地域の環境保全運動に貢献しています。

エレクトリック・カー・テクノロジーの  
スポンサー(CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.)

カナダの首都オタワが毎年開催しているエレクトリックカー(電気自動車)レースに過去3年間参加している地元チーム「Bluevale Collegiate Institute (BCI)」のスポンサーを務めています。このような地道な努力は、地球改善につながり、将来的には環境保全につながっていくと考えています。



未来を担う活動を応援しています

外部団体への参画

環境活動に関わる団体はもちろん、社会活動に関わる団体とも積極的にパイプ作りを行い、多角的に貢献しています。

外部団体への参画

主に環境活動に関わる団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化対策推進本部(チーム・マイナス6%)</li> <li>(財)日本花の会</li> <li>(財)日本緑化センター</li> <li>(財)花と緑の農園財団</li> <li>(財)省エネルギーセンター</li> <li>(財)ひょうご環境創造協会</li> <li>(社)日本電球工業会 環境対策委員会</li> <li>(社)照明学会</li> <li>光源システムにおける環境とエネルギー問題 研究調査委員会</li> <li>地球環境会議(フジサンケイグループ)</li> <li>グリーン調達調査共通化協議会</li> <li>御殿場市水質保全協議会</li> </ul>
主に社会活動や雇用等に関わる団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>(財)地球産業文化研究所</li> <li>(財)海外邦人医療基金(アジア)</li> <li>(財)海外子女教育振興財団</li> <li>(財)留学生支援企業協力推進協会</li> <li>(財)社会経済生産性本部</li> <li>(社)関東年金福祉協会</li> <li>(社)東京都高齢者雇用開発協会</li> <li>(社)東京都障害者雇用促進協会</li> <li>セントジョンアンビュランスジャパン協会</li> <li>御殿場市社会福祉協議会</li> <li>関東身体障害者陸上競技協会</li> </ul>

**Question**  
環境の行動計画をどのように実践していますか？

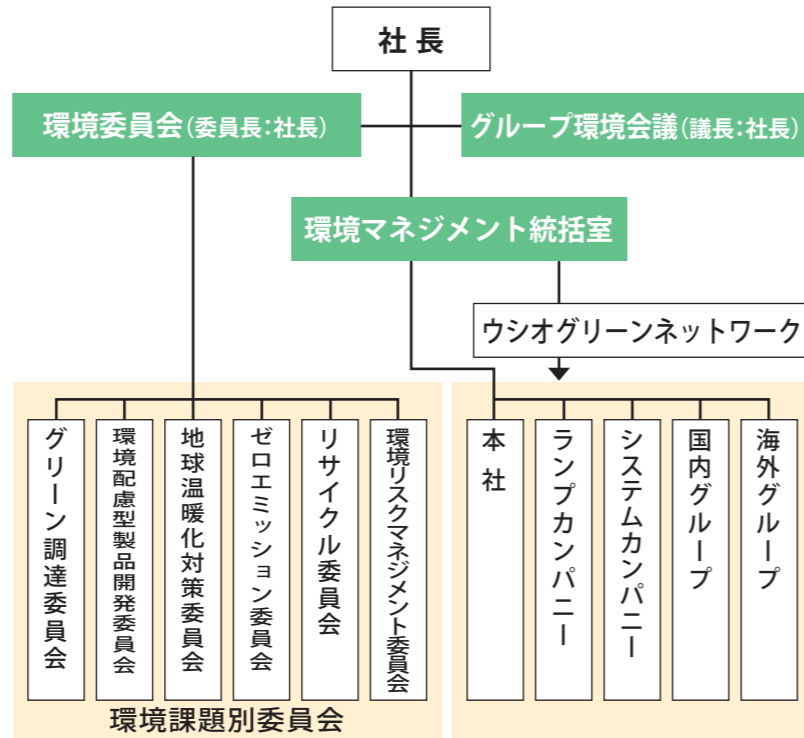
**Answer**  
トップダウンの推進体制のもと、グループ展開しています。

**ウシオ環境推進組織**

「環境委員会」と「グループ環境会議」は本社社長を委員長、議長としたトップ方針や最上位計画を決定する最上部組織です。環境委員会の直下組織に「環境課題別委員会」があり、「グリーン調達委員会」「環境配慮型製品開発委員会」「地球温暖化対策委員会」「ゼロエミッション委員会」「リサイクル委員会」「環境リスクマネジメント委員会」の6つの専門委員会を構成します。ここでグループを含めた全サイトへのガイドや具体化を推進します。

さらに本社「環境マネジメント統括室」や「ウシオグリーンネットワーク」を通じ、各サイトの環境関連部門で目的や目標を達成するための活動に展開されます。各サイトのEMSが活性し効果的なPDCAサイクルをまわしています。

グループ連結環境経営は、このように一本化したトップダウンの体制のもと実践しています。



これまで推し進めてきました第1期ウシオ環境行動計画は2006年度が仕上げの年。この目標達成にウシオグループ全社の力を結集するとともに、さらに2010年に向けた環境ビジョン(※P6参照)を具現化するため、あらたに2007年度から3年間の「第2期 ウシオ環境行動計画 目的・目標」を制定しました。

**第2期 ウシオ環境行動計画目的・目標(2007年度～2009年度)**

環境テーマ	推進部門	目的・目標
1. 環境経営	環境ガバナンスの強化	環境マネジメント統括室 ・グループ環境マネジメントシステムの確立
	環境と生産活動の連携強化による環境生産効率*向上	環境マネジメント統括室 ・経営に直結した環境情報を可視化し、環境生産性の向上を図る
	環境リスクマネジメントの強化	環境リスクマネジメント委員会 ・環境リスク対策強化による環境リスクの低減
2. 環境に配慮した製品性能向上活動	環境配慮型製品の拡大	環境配慮型製品開発委員会 ・環境配慮型製品基準の海外導入、スーパーグリーン製品の創出
	製品リサイクルシステムの拡大	リサイクル委員会 ・製品リサイクルシステムの確立
	製品含有化学物質対策の推進	グリーン調達委員会 ・特定有害物質の削減・代替・全廃により市場のグローバル化に対応
3. 環境に配慮した事業活動(オフィス含)	地球温暖化対策の強化(省エネルギー対策)	地球温暖化対策委員会 ・売上高CO <sub>2</sub> 原単位(原油換算)エネルギー使用量を1990年度比13%以上削減 ・物流改善によるCO <sub>2</sub> 排出量を2006年度比10%以上削減
	廃棄物発生量の削減	ゼロエミッション委員会 ・廃棄物発生を抑制し、コスト削減・環境負荷削減を積極的に推進
4. 環境社会貢献活動【共通活動】	ステークホルダーの方々とのコミュニケーション強化	環境マネジメント統括室 ・ステークホルダーの方々へウシオの環境理念・環境取り組みを積極的に情報公開する
	社会貢献プログラムの強化(拡大)	環境マネジメント統括室 ・地域および地球環境への環境貢献

※環境生産性:生産活動(TPM)にマテリアルフローコスト会計を連携強化し、環境視点から生産性の向上を図り、環境調和型プロセスにより市場競争力のある製品・サービスを生み出していくこと。

**2005年度ウシオ環境テーマ・目標と活動実績**

環境テーマ	推進部門	2005年度目標	評価	2005年度主な活動実績	2006年度目標	関連ページ
1. 製品を通じた市場貢献	(1) 環境配慮型製品の開発	環境配慮型製品開発委員会 主要開発製品80%以上を環境配慮型製品にする(ウシオ電機)	◎	(ランプカンパニー)100%達成 (システムカンパニー)80%達成 環境配慮型製品基準はデザインレビュー(DR)に定着。 「スーパーグリーン製品基準」と「ランプのLCA実施ガイドライン」を3月に制定。	主要開発製品全てを環境配慮型製品にする	P25
	(2) リサイクルシステムの構築	リサイクル委員会 ランプの資源再利用率99%以上を達成	△	大型UVランプは本格処理をスタートさせ、資源再利用率はほぼ100%達成。 中・小型UVランプは輸送形態を含めて試行。本格処理は2006年度へ持ち越し。	全UVランプの資源再利用率99%以上を達成する	P28
2. 事業所環境保全活動の推進	(1) 環境負荷情報の集計	環境マネジメント統括室 100%完了(グループ全体)	○	国内外のウシオグループ全体(全連結環境経営対象会社)の集計を実施した。	—	P31～36
	(2) 省エネルギー対策の推進(地球温暖化防止)	地球温暖化対策委員会 売上高CO <sub>2</sub> 原単位(原油換算エネルギー使用量)を1990年度比9%以上削減(ウシオ電機)	×	横浜事業所や本社・営業部門などでは年間の事業所目標を達成した。 播磨事業所においては生産変動が原単位に影響し、年度目標は未達となる。 全社の売上高あたりCO <sub>2</sub> 排出量は、目標の147.9kg/百万円に対して、173.7kg/百万円となり未達。	CO <sub>2</sub> 原単位排出量を1990年度比10%以上削減する(ウシオ電機)	P26
	(3) ゼロエミッションの推進	ゼロエミッション委員会 有効利用率99%以上(国内グループ会社)	△	各事業所におけるリサイクル計画の推進を行った結果、横浜事業所、大阪支店でゼロエミッションを達成したものの国内グループ全体では未達。ウシオ電機全社の有効利用率は97.6%。(第4四半期)	ゼロエミッション達成(グループ全体)	P28～29
3. グリーンパートナーシップの推進	(1) 部材グリーン調達の推進	グリーン調達委員会 グリーン調達率99%以上達成(国内グループ会社)	△	(ランプカンパニー)播磨事業所のグリーン調達率100%を達成した。 (システムカンパニー)約500社の主要仕入先に対し、グリーン調達基準送付・説明を行い、90%の回答率を得た。 アジア地区グループ会社に対して、ウシオグリーン調達ガイドラインを指導、ウシオ電機と協力してグリーン調達を推進する体制を構築した。	グリーン調達率99%以上達成(グループ全体)	P27
	(2) 環境マネジメントシステムの構築(ISO14001認定取得を基本)	環境マネジメント統括室 環境マネジメントシステムを拡大(国内グループ会社)	○	計画通りISO14001認証を取得し、国内グループ会社は対象全サイトにおいて計画通りISO14001認証取得、または取得計画の策定を完了。(新会社を除く2社) この他、海外では販売部門1社があらたにISO14001を認証取得し、未取得サイトでもEMS構築を開始。	環境マネジメントシステムを拡大(グループ全体)	P22
4. 環境経営システムのレベルアップ	(2) 環境会計システムの構築	環境マネジメント統括室 環境会計実施(グループ全体)	○	ウシオ電機全社の集計のみならず、グループ全体で、集計を実施した。	マテリアルフローコスト会計の実施	P29
	(3) 環境リスクマネジメントシステムの体制強化	環境リスクマネジメント委員会 環境リスク情報第一報ルール化	○	8月に環境リスクマネジメント委員会を新設し、環境リスクマネジメントシステムの強化やグループ会社への水平展開を検討。 「環境リスク・環境事故情報の一元化」において、3月にウシオ電機でルール化。	環境リスクマネジメントガイドラインの導入(グループ全体)	P24
5. 環境社会貢献の推進(環境コミュニケーションの強化)	(1) 環境報告書/サステナビリティ報告書の発行	環境マネジメント統括室 6月に2004年版(グループ)サステナビリティレポート2005を発行	○	ウシオ電機全社の活動のみならず、内外の主要グループ会社の活動、サイトデータ、さらにはCSR活動(社会側面の報告)も一部掲載し7月20日に発行した。	6月に2005年版(グループ全体)サステナビリティレポート2006発行。 環境総合窓口(ガバナンス用)の開設	P9 P18

評価:◎目標以上に達成、○目標通り達成、△取り組んではいるがいま一歩の成果、×60%以下の達成

**Question**  
**グループの環境マネジメントシステム(EMS)は、どう展開していますか?**

**Answer**  
**方針や計画を各グループで整合・共有化を図り、全グループ一体で成し遂げることができるよう展開しています。**

**活動の指針と目標**

ステークホルダーの方々の期待に応えられる取り組みを目指します。

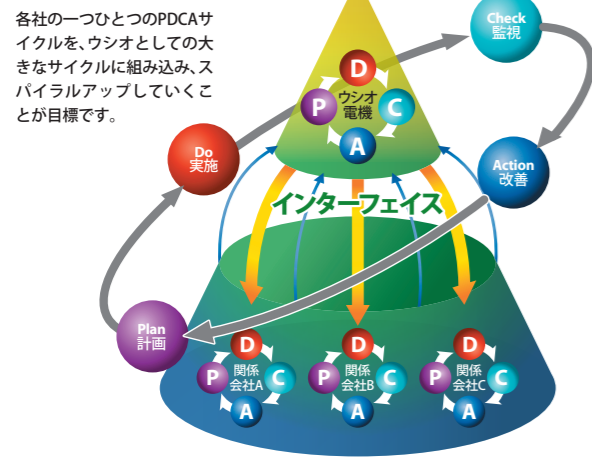
刻々と厳しさを増す各国の法規制やお客さまのご要求に対して、着実に、また誠実に対応するためにも、グループ全体での活動が求められてきています。ウシオは「常にお客さまの優良サプライヤーであり続けること」「ステークホルダーの方々への適切な対応や環境情報の公開」は企業の責務と考え、ウシオ環境行動計画を制定しました。その達成に向けて全グループ一体となった、より効果的な取り組みを推し進めていきます。

**活動の概要**

**国内・海外を含め一体化したウシオグループのPDCA構築**

国内はISO14001主体での活動、海外はISOもしくは同等のEMS活動を実践しています。各社ごとの独自のシステムを活かしながら、国内・海外を含めたウシオとしてのPDCA(Plan Do Check Action)を構築し、スパイラルアップを目指しています。

**ウシオグループのPDCAサイクル**



**2005年度実績・具体事例**

**第3回グループ環境会議の開催(2006年2月)**

- 最高経営責任者(ウシオ電機社長)が議長を務め、役員やグループ会社最高経営責任者が集まり、
- ①2006年度連結環境経営対象範囲の決定
  - ②環境保全活動の成果確認と是正
  - ③環境情報の共有化
  - ④グループ環境活動の連携の推進
  - ⑤その他環境保全に関わる重要事項の審議
- など連結環境経営の実現に向け、審議・決定を行いました。

**ISO認証状況**

国内5社、海外4社がISO14001を認証取得しています。2005年度は筑波ウシオ電機・ウシオ台湾、2006年5月には群馬ウシオ電機が新規取得をしました。その他グループ各社においても、順次EMS構築に向け活動しています。〈認証状況はP31-36参照〉

**内部環境監査**

ウシオではISO14001要求事項や自ら定めた基準などにもとづき、定期的に内部環境監査を実施。不適合・改善要望点の是正とともにストロングポイントを拾い上げ、監査結果をトップマネジメントによるレビューに反映しています。

ウシオ電機の内部環境監査員は、全従業員の約7%にあたる計100名。グループにおいては、国内40名(前年度比80%増)、海外40名(前年度比60%増)の監査員が活躍しています。また公認環境審査員の資格取得を促進し、登録審査員が3名います。

特にウシオ電機においては、各サイトのトップマネジメントに任命される内部環境監査リーダー(主任内部環境監査員)が、サイトにとらわれず内部環境監査員を選出することができ、相互監査を展開。これにより客観性を確保し充実を図っています。さらに品質マネジメントシステムの内部品質監査員との連携も行っていきます。

今後もEMSの継続的改善、およびパフォーマンス向上に役立ててまいります。

**これからの取り組み**

**外部目標・内部目標を設定し、より具体的な活動をしていきます。**

内部の情報共有や外部への情報公開に重点をおき、お客さまに選ばれる企業をグループ一体で目指していきます。

- 内部目標
  - ・ウシオ環境テーマの目標達成
  - ・グループ全体で環境負荷指標や環境会計の集計力強化
  - ・情報共有の強化:強化テーマ対応に向けた検討会の実施
  - ・コンプライアンスなどのグループガバナンスの強化
- 外部目標
  - ・ホームページなどによるグループで統一された情報公開や環境メッセージの発信
  - ・グローバルブランドの防衛と強化
  - ・優良サプライヤーの認定
  - ・企業格付けの向上

**Question**  
**ウシオはどのような環境教育や啓発活動を行っていますか?**

**Answer**  
**社員一人ひとりの感性を磨き、力量を向上させる環境教育を実施しています。**

**活動の指針と目標**

**全社員が参加する環境教育**

環境経営を実践するためには、トップの意思表示はもちろん、全社員が高い環境意識を持って業務を行うことが必要です。環境経営の一番の資源は「人材」であり、一人ひとりが積極的に関わる力となる人材育成を目指します。そのために、さまざまな環境専門教育や意識啓発教育のプログラムを実施します。

**活動の概要**

**基本は一人ひとりの向上**

- 1. 人材育成としての環境一般教育**  
 新入社員の総合研修をはじめ、役職者昇格受験者教育および経営幹部教育に人事制度として環境教育を実施しています。
- 2. 部門業務に則した環境特別教育**  
 部門の職務において環境活動を推進するために、環境特別教育を実施しています。
- 3. 内部環境監査員養成の専門教育**  
 内部環境監査員教育を実施し、毎年増員を図り、全ての部門に内部環境監査員を配置しています。自らが監査員の視点で部門業務をチェックできる、自主管理体制を整えました。

**ウシオ電機環境教育体系**

区分	名称	対象者	備考	主管
環境一般教育	新入社員教育	新入社員	ウシオの環境活動、EMS	人事部(人事階層別教育)
	役職昇格試験受験者研修	昇格試験受験者	スクーリング環境教育、環境マネジメント	
	経営幹部対象研修	経営幹部	環境リスクマネジメント講習会	
	環境一般教育	全社員・構内委託作業員	自覚に関する教育、OJT含む	
環境特別教育	環境保全教育	環境推進部門	グループ環境推進に関する事項	各部門
		施設部門	環境法規、公害防止	
	各部署	著しい環境影響を与える作業、法規制順守に関わる作業、訓練		
	グリーン調達教育	購買部門	部材グリーン調達基準	
	環境リスク感性向上教育(トレーニング)	現場部門	環境リスク感性向上トレーニング、環境リスク巡回	
緊急時対応教育	関係部署	緊急時措置、点検		
環境配慮設計者教育	技術部門	環境配慮型製品基準		
環境配慮型製品教育	営業部門	グリーン製品販売		
専門教育	内部環境監査員教育	内部環境監査員、各部門推薦者	ISO要求事項の理解、環境法規・監査のポイント	各サイト環境部門

**2005年度実績・具体事例**

**現場教育を継続実施しました**

- 1. 環境リスク巡回**  
 部門のマネージャーおよび担当者と環境部門が一緒になっ

て、三現主義(現場・現物・現実)の考えのもと、潜在的な環境リスクを発見するため「環境リスク巡回」を行い、環境汚染などの発生危険場所の洗い出しと、予防活動を重点的に行いました。この実践的な活動は、社員の「環境リスク」を発見する能力の向上トレーニングに位置付けています。



環境リスク巡回

**2. グループ環境交流**

グループ全体での環境交流、環境啓発活動を実施し、ウシオグループ全体で、環境感性・能力向上を推進しています。



UAI(ウシオアメリカ)社員の内部環境監査員教育(2006年2月実施)

2005年度は国内グループ2社、海外グループ6社と環境交流を実施しました。

**3. 環境講演会/見学会**

外部の先進的な活動を知り、環境への取り組みをレベルアップするために、講演会や工場見学会を実施しました。

●講演会:「加速する環境潮流~これからの環境経営と生き方~」



- ◎開催: 2005年12月14日
- ◎講師: 外部講師
- ◎出席者: 75名

●見学会1回目:「環境先進企業のオフィス」

- ◎開催: 2005年11月10日
- ◎参加者: 11名

●見学会2回目:「環境先進企業の緑化優良工場」

- ◎開催: 2006年1月16日
- ◎参加者: 13名

**これからの取り組み**

**業務と密接に関連した専門教育を重視します**

部門活動と密接に関連した専門教育を重視し、さらに、階層別人材教育における環境マネジメント教育の充実をしていきます。海外グループを含め、連携した環境教育を定期的の実施していきます。

**担当者メッセージ**

環境マネジメント統括室  
 氏家 啓一  
 人事部  
 五十嵐 満澄



企業の環境活動は、工場の汚染予防、製品の環境配慮や地球温暖化防止まで幅広く、これらの課題に取り組んでいくためには、社員一人ひとりの業務活動に則した環境感性と力量向上が、とても重要だと思います。社内環境教育の充実によって、貢献していきたいと思っています。

**Question**  
「環境」に関わるリスクに対して、どのような対策を講じていますか？

**Answer**  
環境リスクマネジメント委員会を発足し、これまで以上に体制強化を図っています。

**活動の指針と目標**  
危機管理体制の強化と環境リスクマネジメント体制強化

環境などのリスク予防・低減するための活動を推進し、グループ全体での危機管理体制の強化を図ります。また、環境マネジメントシステムに組み込まれている「環境法規制およびその他の要求事項の順守」や「緊急事態の準備および対応」の全体のレベルアップを図り、環境リスクマネジメント体制の強化を行います。

**活動の概要**  
環境リスクマネジメントガイドラインの制定に向けた取り組み

2005年8月に発足した「環境リスクマネジメント委員会」が主体となって、環境リスクに関連する事項について各サイトの現状調査を行い、全体を通して必要な方策を検討してきました。2005年度は「環境リスクマネジメント委員会行動計画」を策定、「環境リスク情報の一元化」を設定、「環境リスクマネジメントガイドライン」の策定に向けた検討を完了しました。



環境リスクマネジメント講習会

**2005年度実績・具体事例**  
環境リスク情報の一元化

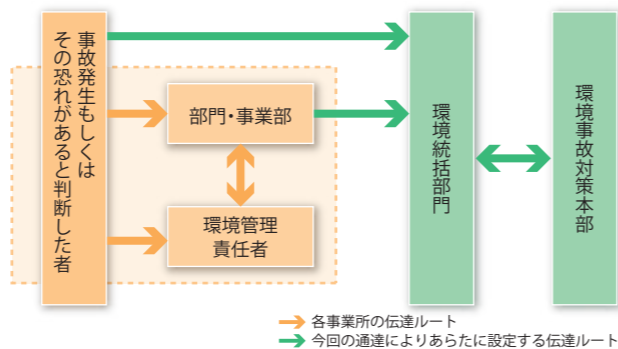
環境リスクマネジメント委員会は、本社・播磨事業所・横浜事業所・御殿場事業所の各サイトから、環境部門だけでなく法務・総務・業務部門から委員を構成しています。月に1回の会合を持ち、活動指針や課題(役割)に沿って「環境リスクマネジメント委員会実行計画書」を策定し、以下の通り目標達成に向けた活動を実施しています。

- ①幹部への環境リスク講習会を実施。(本社・横浜事業所・播磨事業所にて開催)
- ②万一の災害その他の理由により、環境事故が発生もしくはそのおそれがあると判断した場合、社内規定や環境マニュアル

などルールに従った連絡・処置を確実に実行するための「環境リスク情報の一元化」を設定。

- ③環境リスク情報の集約・スピード処置が図れるよう「専門対策本部」などの設置(必要に応じて)などから、万一の際は適切かつ迅速な対応を行う。
- ④環境リスクに関する各サイトの現状調査を行い、全体を通して必要な方策を検討。さらにグループ全体へ適用する「環境リスクマネジメントガイドライン」の策定に向けた検討を完了。

環境リスク・環境事故情報の伝達ルート



- 環境統括部門：環境マネジメント統括室
- 環境事故対策本部：環境統括部門責任者は、通報に基づき重大なリスクと判断した場合には、「環境事故対策本部」を設置する。常任メンバーは社長、管理総括担当役員および環境統括部門責任者とし、追加の召集メンバーは事象に応じて常任メンバーが選任する。

**これからの取り組み**  
万一の「環境事故」などにしっかりと対応できる企業

環境リスクの予防・低減などは、今後もさらに、

- ①環境リスクマネジメントシステムの構築・強化
- ②グループ全体での危機管理体制の強化

を体系的に、またより具体的な施策をもって進めます。リスク管理体制は、まさに現時点にもなければならぬものです。ウシオは、今ある体制をさらに仕組みとして強化します。2006年度内に今回計画した実施必要事項を完了し、万一の「環境事故」などにしっかりと対応できる企業、信頼できる企業として、取り組んでまいります。

担当者メッセージ

環境リスクマネジメント委員会  
数永 健二

環境リスク低減の基本となる「社員一人ひとりのリスク感性向上」と「風通しの良い企業風土」を制度的に確立するとともに、万一を想定したBCM(事業継続管理)につながるシステムの構築を目指します。



**Question**  
環境に配慮した製品開発は進んでいますか？

**Answer**  
環境配慮型製品アセスメントが定着。LCAも活用し、画期的な環境配慮型製品作りを目指しています。

**活動の指針と目標**  
画期的な環境配慮型製品の創出に向けて

ウシオは環境問題をビジネスチャンスと捉え、より環境負荷の少ない製品の開発および提供を企業の経営戦略として積極的に取り組んでいます。これまでの環境配慮型製品基準を満たすだけでなく、市場情報・技術情報およびお客さまのご要求を積極的に捉え、一層レベルアップした環境配慮型製品の創出を目指します。

**活動の概要**  
環境配慮型製品アセスメントが定着しLCAに取り組みました

①環境配慮型製品アセスメントを開発・設計の仕組みの中で行うようになってから、環境に対する意識が高まり、通常の設計の際にも環境を配慮するほどに定着してきました。その結果2005年度の主要開発製品40件の全てが環境配慮型製品として認定\*されました。

\*環境配慮型製品認定：従来の品質・性能にプラスして、省エネや有害物質の使用・削減および3Rの具現化に関するアセスメント基準を適用して、全ての必須項目を満たし、評価点が60点以上になること

②ランプカンパニーでは技術者、環境推進者が参加して「LCA説明会」「スーパーグリーン製品基準説明会」を実施しました。



LCA説明会

「LCA説明会」：  
(開催)2005年10月28日、(出席)技術者等32名  
「スーパーグリーン製品基準説明会」：  
(開催)2006年3月30日、(出席)技術者等30名

③ランプの主要製品についてLCAを実施し「複写機用原稿照明外部電極式希ガス蛍光ランプ」と「データプロジェクター用高輝度放電ランプ」については評価結果をホームページに公開しました。LCAを容易に実施できるよう「ランプのLCA実施ガイドライン」を制定しました。

④スーパーグリーン製品の創出に向けて、「スーパーグリーン製品基準」を制定しました。  
ウシオにおけるスーパーグリーン製品とは環境配慮型製品基準を満たし、かつ業界や日本、世界のいずれかのトップランナー以上に優れた環境配慮型製品。

**2005年度実績・具体事例**

環境配慮型製品とLCA実施例

1. 環境配慮型製品事例「25kW超高压UVランプ」  
環境配慮型製品の開発を推進するため、各技術部門では開発段階からアセスメントを行っています。「25kW超高压UVランプ」の重量あたりの照度を改善し、従来比10%の環境

効率向上を図りました。さらに、お客さまの装置と組合せると大幅な環境負荷の低減につながります。



超高压UVランプ

2. LCA実施事例

(複写機用原稿照明外部電極式希ガス蛍光ランプ)

ランプ1本のライフサイクルにおける各ステージ別CO<sub>2</sub>排出量を算出した事例です。使用段階でのCO<sub>2</sub>排出量は全ライフサイクルの約94%を占めており、電力による負荷が大きいためとわかります。改善策として省エネタイプの開発に取り組んでいます。

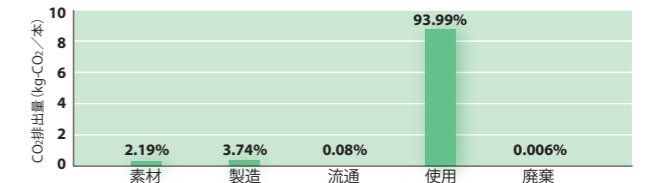


希ガス蛍光ランプ

(詳細は当社ホームページ<http://www.ushio.co.jp/eco/lca.html>を御覧ください。)

ランプにおけるライフサイクル別CO<sub>2</sub>排出量

ライフサイクルの各ステージ別CO<sub>2</sub>排出量  
対象ランプ：外部電極式希ガス蛍光ランプ



**これからの取り組み**

スーパーグリーン製品の創出と開発ステップへのLCA定着を図ります

- ①2006年度においても主要開発製品全てを環境配慮型製品にします。
- ②ランプのLCAを設計・開発ステップの仕組みに入れ(制度化)、さらに電源・装置にLCAを実施していきます。
- ③「スーパーグリーン製品基準」を運用して画期的な環境配慮型製品(スーパーグリーン製品)を創出していきます。

担当者メッセージ

環境配慮型製品開発委員会  
虎谷 聡

環境負荷の低減は企業の社会的責任です。特に製造業の経済活動のアウトプットである製品のライフサイクルにおける環境負荷の低減は大変重要であり、これからもこの活動を進めていきます。



**Question**  
ウシオの地球温暖化防止対策のポイントは何ですか？

**Answer**  
全エネルギーの効率的な運用を図ることで、温室効果ガスの排出削減に努めています。

**活動の指針と目標**

**CO<sub>2</sub>排出量を1990年度比9%以上削減(売上高原単位)**

ウシオでは2006年度に、事業所からのCO<sub>2</sub>排出量を売上高原単位で1990年度比10%以上削減という中期目標を掲げています。

この計画に基づき、2005年度の目標を9%以上削減とし、以下の重点方針に沿った活動を展開しました。

- ①各事業所の省エネ推進組織を核として事業所ごとの目標展開を図り、エネルギー使用のムダ・ロス排除を徹底します。
- ②特に生産事業所においては、生産設備・用役設備の省エネ化と運転管理の徹底を図り、エネルギーの効率的な使用を目指します。
- ③従来からのエネルギー供給システムを見直し、より効率的でCO<sub>2</sub>削減に効果のあるシステム導入を目指します。

**活動の概要**

**CO<sub>2</sub>発生量の伸びは抑制できたが2005年度の原単位目標は未達**

**1. 新棟にガスヒートポンプ方式を採用(播磨事業所)**

2004年度に新築した2つの建屋において、空調システムにガスヒートポンプ方式を採用してCO<sub>2</sub>排出量の抑制を実現しました。2005年度においてもさらに1棟を建築しましたが、同様にガスヒートポンプ方式の空調とすることで、CO<sub>2</sub>の排出量増加を抑えています。(CO<sub>2</sub>排出量抑制効果:約100トン/年)

**2. 「省エネ推進報告会」開催(播磨事業所)**

2005年11月、社長をはじめ事業所長、各部署GM合計39名の出席のもと、各部署での省エネ取り組みを紹介する「省エネ推進報告会」を開催。省エネ方策の水平展開とともに意識の向上を図りました。



省エネ推進報告会

**3. 電力使用実績を「見える化」(播磨・横浜事業所)**

両事業所では、「電力監視モニター」による電力使用実績の「見える化」が図られ、各工程や作業ブロックでの実態把握によって、きめ細かな管理を実現しています。

**4. 社会的な啓発活動**

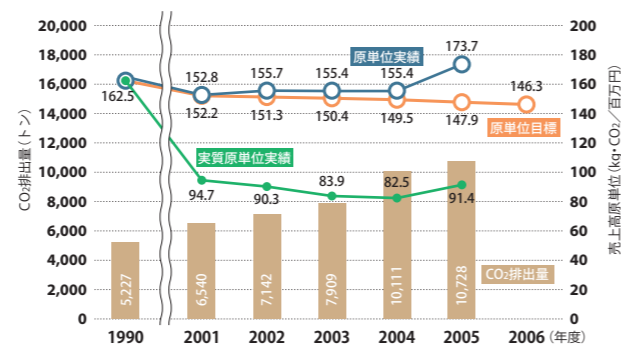
「チーム・マイナス6%」への参加をはじめ、「クールビズ」「ウォームビズ」の推進では啓発ポスターを制作し、全員参加を呼びかけたほか、「ブラックイルミネーション2005」で播磨事業所の広告塔照明を消灯するなど、政府諸施策に積極的に参加しCO<sub>2</sub>削減を図ってきました。

これらの活動の結果、CO<sub>2</sub>の排出を約500トン(4.5%)抑制し、2005年度のCO<sub>2</sub>排出量は、播磨事業所と御殿場事業所の新棟稼働という状況の中で、前年度比6%の増加に押さえ込むことができました。

しかしながら、販売市場の変化などにより、原単位は悪化する結果となり、目標は未達に終わっています。

この結果を教訓に、2006年度においては、さらに効果的な省エネ設備の導入や、現場におけるエネルギーのムダ・ロスを徹底して排除することで、CO<sub>2</sub>排出量の削減を目指します。

**CO<sub>2</sub>排出量 売上高原単位推移**



なお、売上高原単位では1990年度実績を上回る結果となりましたが、電機電子4団体が統一目標として採用した実質売上高原単位\*では、1990年度比40%の削減実績となっています。

\*実質売上高:名目売上高÷日本銀行企業物価指数(電気機器)

**これからの取り組み**

**トータルエネルギーでのCO<sub>2</sub>削減への取り組み**

- ①省エネ法や地球温暖化対策法の改正により、トータルなエネルギー管理が要求されるようになりました。従来からのCO<sub>2</sub>削減策に加え、事業活動で使用する全エネルギーにわたって、合理化・効率化を図り、CO<sub>2</sub>だけではなく、温室効果ガス全体の削減を目指します。
- ②物流や建築物における省エネ施策についても、法を順守する精神で取り組みを進め、温室効果ガスの削減につなげます。
- ③ガスコージェネの導入、A重油の削減など、エネルギー源の転換を含めた諸施策を検討していきます。

**担当者メッセージ**

地球温暖化対策委員会  
藤田 利和

一人ひとりの省エネ活動の積み重ねが、結果的に地球温暖化防止という大きなテーマにつながってくると信じ、今後とも地道な活動を継続していきます。



**Question**  
ウシオのグリーン調達を進捗状況はいかがですか？

**Answer**  
ウシオは欧州連合の環境規制(RoHS指令)該当製品は100%調査・代替化を完了。適用除外製品も対策中です。

**活動の指針と目標**

**製品構成部材のグリーン調達率99%以上に。生産工程もグリーン化を強化**

ウシオは、欧州連合(EU)の有害物質規制であるRoHS指令と、それを見越したお客さまのご要求に対応するために、社内だけではなく調達部材の全ての仕入先さまのご協力をいただき、製品構成部材に含有する化学物質を管理し保証していく「製品構成部材化学物質管理体制」を構築し、運用しています。

これは、部品・原材料に含有される化学物質の管理を、①仕入先さまの禁止物質不使用保証、②部材ごとの含有化学物質調査、③リスク低減のための分析測定のための3つのポイントにより化学物質規制への対応を総合的に管理していく体制です。この体制で国内グループ会社も含めて製品構成部材のグリーン調達率99%以上を目指します。

さらに生産工程における規制化学物質のコンタミネーションをなくすため、「生産事業体・生産工程における化学物質管理レベルガイドライン」にもとづく管理強化に努めます。

**活動の概要**

**JGPSSIへの加入を機会に製品構成部材のグリーン調達を加速**

ウシオは、2003年2月にグリーン調達基準第1版を発行、その後の改訂を経て、2005年4月のグリーン調達調査共通化協議会(JGPSSI)への加入を機会に、同年10月にグリーン調達基準第3版および化学物質管理レベル分類表Ver.3を発行しました。

この新基準をもとに、全ての製品構成部材に対し、当社基準における全部材のグリーン調達率99%以上を達成することを目標として、仕入先さまのご協力のもと、取り組みました。

ランプカンパニーの2005年度実績は、100%となり目標を達成しましたが、国内グループ会社を含めた統一基準に基づく調達体制の構築は2006年度に持ち越しとなりました。

**2005年度実績・具体事例**

**グリーン調達率99%以上を目標にさまざまな取り組みを展開しました**

- ①目標の部材グリーン調達率99%以上を達成しました。約20,000余の部材に対し、仕入先さまに依頼して禁止化学物質不使用保証と化学物質の調査結果を入手し、ウシオ基準との照合・認定とDBへの登録を完了しました。(ランプカンパニー)
- ②RoHS該当製品の構成部材に対する禁止化学物質含有部材は、全て代替化・廃止を完了しました。(ランプカンパニー)

③2005年9月ランプカンパニー、2006年4月UHK(ウシオ香港)に蛍光X線分析装置を導入しました。従来からの高精度分析法に加え、効率性を生かして、社内分析体制の強化・混入リスク低減を図っています。(ランプカンパニー、UHK)



蛍光X線分析装置

④新製品開発時に環境配慮型製品アセスメントマニュアルにもとづく禁止化学物質の含有確認を盛り込み、部材の選定に部材化学物質DBを活用しています。

⑤2006年度の仕入先さま調査として、JGPSSIガイドラインに準じた化学物質管理体制のガイドラインを整理しています。(グリーン調達委員会)

⑥2005年2月に制定・発行した「生産事業体・生産工程における化学物質管理レベルガイドライン」に基づき、2005年度は生産工程の化学物質管理を徹底・強化しました。

⑦グリーンパートナーシップ推進の一環で、仕入先さまを対象として外部講師を招き、エコアクション21取得を薦める活動を行いました。計31社にご参加いただき、環境マネジメントシステムの構築をお願いしました。(システムカンパニー)



EA21の講義

**これからの取り組み**

**ウシオグループ全体で統一基準にもとづくグリーン調達体制の構築**

部材化学物質調査の信頼性を高め、含有部材(製品)流出のリスク低減のため、ハイリスク部材指定による仕入先さま調査・受け入れ検査体制の整備を目指します。

さらにウシオグループ全体で統一基準にもとづく部材グリーン調達体制の構築を目指します。

**担当者メッセージ**

グリーン調達委員会  
糸 幸二

2006年7月にRoHS指令の適用開始となります。当社はお客さまのご要求もあり前倒しの対応を行ってきました。今後も、信頼性向上・混入などのリスク低減に注力いたします。



**Question**  
ゼロエミッションの進捗状況について教えてください。

**Answer**  
横浜事業所、大阪支店でゼロエミッション達成。  
他の事業所でも着実に推進しています。

**活動の指針と目標**  
2005年度目標はゼロエミッション  
(有効利用率99%以上)の達成

廃棄物処理では、排出量の削減や有効利用・再資源化の推進と相まって、処理状況の管理も重要な要素です。

2005年度は、ゼロエミッション(有効利用率99%)の達成を目標に「廃棄物・リサイクルガバナンスガイドライン(経済産業省)」の趣旨に沿った、全社版廃棄物管理ガイドラインを策定し、環境ガバナンスを強化します。

**活動の概要**  
有効利用率アップを目標に  
多角的な活動を展開  
(ゼロエミッション)

1. UV ランプの再資源化処理を本格的に開始(播磨事業所)  
水銀を使用したランプの埋立処分をゼロにする目処が立ち、ゼロエミッション達成へ大きく前進しました。

2. 再資源化ルートの新開拓(横浜事業所)  
これまで埋立処分をしていた混合機械部品類などに関して、あらたに再資源化ルートを開拓しました。これによりサーマルリサイクルを含めて全ての廃棄物の再資源化が実現。ゼロエミッションを達成しました。

3. ビル管理会社との交渉や処分ルートの調査で状況を把握  
(本社・東京営業本部・大阪支店)

本社、東京営業本部および大阪支店はテナントビルに入居しているため、これまででは廃棄物の処分に関与しにくい状況にありました。しかし、ビル管理会社との交渉や処分ルートの調査などを行い、大阪支店においては、全ての廃棄物がサーマルリサイクルを含めて有効利用されていることが確認できゼロエミッション達成にカウントしました。

また本社・東京営業本部でも、現在埋立処分されている廃棄物を有効利用する方策について、ビル管理会社や処分業者との交渉を継続しています。

4. 蛍光灯のレンタルサービスを導入(御殿場事業所)  
蛍光灯のレンタルサービスを受け、再資源化処理をより確実なものにしています。

5. 「廃棄物・リサイクル物管理ガイドライン」を発行  
ゼロエミッションの推進と歩調を合わせ、廃棄物処分の管理強化にも取り組みました。

2005年7月に全社的な「廃棄物・リサイクル物管理ガイドライン」を発行。各拠点に展開して、適正管理の推進に役立てています。

**(リサイクル)**  
1. 石英ガラスのリサイクルの取り組み(御殿場事業所)  
御殿場事業所では、さらなる有効利用率向上に向け、石英ガラス屑のリサイクル化に取り組んでいます。石英ガラス屑は埋

め立てゴミの7割以上を占めており、ゼロエミッション達成サイトへ向けた大きな課題として認識しています。

2005年度は、関係部署と連携を図って活動を推進した結果、リサイクル化の目処がたちました。2006年度には実現できるよう取り組んでいきます。



石英ガラス

2. お弁当容器はリユースで  
(本社・東京営業本部)  
有効利用率向上に向けた取り組みとして、入居しているビルでは唯一最終処分されるプラスチックゴミ(約22%分)の対策を重点的に検討しました。調査の結果、プラスチックゴミの50%以上をお弁当容器が占めること把握し、2005年は施策などをビル管理会社への相談も含め検討してきました。

その結果2006年度よりリユースが可能なお弁当容器を利用している業者を採用することになりました。

単に有効利用というだけではなく、リユースが可能なお弁当容器を利用するというリユースの考え方で、ゼロエミッション達成に向け光が見えてきました。

3. 身の回りでリサイクル活動(横浜事業所)  
社員数が増加し、更衣室のロッカーが不足した場合でも従来のように新品を購入するのではなく、リサイクル品の中古ロッカーを専門の業者から購入し、活用しています。

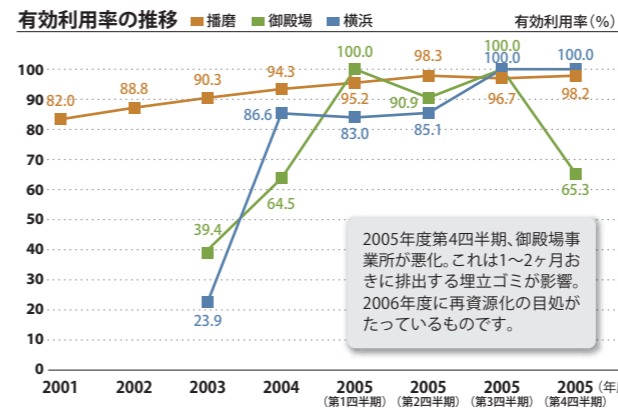
また、書類の電子化を進め、各部署では紙の資料や図面などの削減を積極的に行っています。これに伴い事務用品や大量のファイル類が不要となりましたが、所内の情報交換を密にし、必要としている他の部署や事業所で再度活用しています。

合わせて、各社員が不要となった事務用品を入れるリサイクル箱を設置しました。筆記用具やファイルなどの各種事務用品類で必要なものがあれば、購入する前にリサイクル箱の中を見て、誰もが気軽に持ち出して有効利用できるよう活動を進めています。

**2005年度実績・具体事例**  
ウシオ電機国内6拠点のうち2拠点で  
ゼロエミッションを達成

活動の結果、前述のようにウシオ電機国内6拠点のうち2拠点(横浜、大阪)において、ゼロエミッションを達成しました。

他の拠点においては、2005年度中のゼロエミッション達成はできませんでしたが、有効利用率は着実に向上しています。特に播磨・御殿場の両生産拠点においては、2006年度前半に達成する見通しです。



**これからの取り組み**  
グループ各社への展開。  
ウシオグループ全体での取り組みを推進

①播磨・御殿場の両事業所において、2006年度前半のゼロエミッション達成を目指すとともに、本社・東京営業本部でのさらなる有効利用率アップを図ります。

②全社規模でのゼロエミッション実現とともに、総排出量の削減にも積極的に取り組み、環境負荷の低減を図ります。

③ガイドラインを基準として、各拠点で廃棄物管理体制の見直しを行い、全社的に安全で確実な廃棄物管理のシステムを構築します。

④これらの取り組みをグループ各社に展開し、ウシオグループ全体での廃棄物削減、管理体制構築の活動を推進していきます。

**担当者メッセージ**

システムカンパニー 管理部 総務課  
野口 武彦

社員一丸の廃棄物徹底分別と、あらたな資源化ルートの開拓により、ゼロエミッションを達成できました。今後は廃棄物の減量についても注力して参ります。

環境会計

ウシオグループでは、環境保全活動に効果的な投資を行う必要があると考え、環境経営を評価するために、グループ全体で環境会計を導入しています。2005年度は国内外のグループ会社(全連結環境経営対象会社)で統一基準に基づき集計しました。グループ全体の事業活動と製品のライフサイクルが環境に与える負荷を、より広範囲に詳細に把握し効果的な投資を行うことにより、より一層の環境経営の向上に取り組みます。

2005年度は、費用合計が約218百万円、効果額合計は約134百万円(実質的效果および推定的効果)を計上しました。2004年度と比較し、効果額が減少した主な原因は「資源循環」における製品部材リサイクル量の減少によるものです。

分類	主な内容	費用	環境設備投資	効果額	
				実質的效果	推定的効果
公害防止	フッ酸処理設備などによる汚染予防活動、土壌汚染分析による状況確認 など	41.9	44.0 (汚染防止設備、監視井戸、蛍光X線分析装置他)	0.1	49.8
地球環境保全	高効率空調機導入による省エネ、照明リニューアル など	46.2		21.9	2.1
資源循環	廃棄物置場の改善、廃棄物処分費用 など	46.1		40.2	0.0
上・下流	RoHS指令対応のための設計変更・調達対応、グリーン調達説明会の実施 など	11.0		1.4	0.0
管理活動	環境マネジメントシステム維持費、監視井戸によるリスク低減活動 など	48.8		0.0	16.3
研究開発	有害物質削減のための設計変更、蛍光X線分析装置による検査 など	22.3		0.0	1.2
社会活動	寄付、美化・緑化活動 など	1.5		0.0	1.0
環境損傷対応	-	0.0		0.0	0.0
合計		217.8		63.6	70.3

単位:百万円

〈参考〉  
当社およびグループ会社製品の代表的な省エネ型製品について、製品使用時のエネルギー削減による効果を算出しました。

社会におけるCO<sub>2</sub>削減効果<sup>※</sup> 127,241 t-CO<sub>2</sub>

●対象期間:2005年4月~2006年3月31日  
●対象範囲:連結環境経営対象範囲(P1 主要グループ・ネットワークの注釈に示す会社)  
●環境保全コストの算定基準:  
①費用額には人件費、投資の減価償却費を含みます。  
②設備投資額の減価償却費は5年の定額法を用いています。  
③環境保全コストとそれ以外のコストが複合したものは、環境保全に関わる部分だけを計上しました。  
●効果:実質的效果(直接金額で算出)と推定的効果(可能性を推定して算出)としています。  
※CO<sub>2</sub>削減効果:「削減電力量」×「2005年度出荷本数」×CO<sub>2</sub>換算係数にて算出しました。



Question

事業活動がおよぼす環境負荷の数値を把握していますか？

Answer

製品のライフサイクル全体を考え

その環境に係る数値を把握し、次の活動へつなげています。

活動の指針と目標

効率のよい環境負荷低減

ウシオグループ全体の事業活動と製品のライフサイクルの視点から、環境負荷を捉え、その低減を目指します。

2005年度実績・具体事例

エコバランスを通じて自らの環境影響を評価

〈エコバランス〉

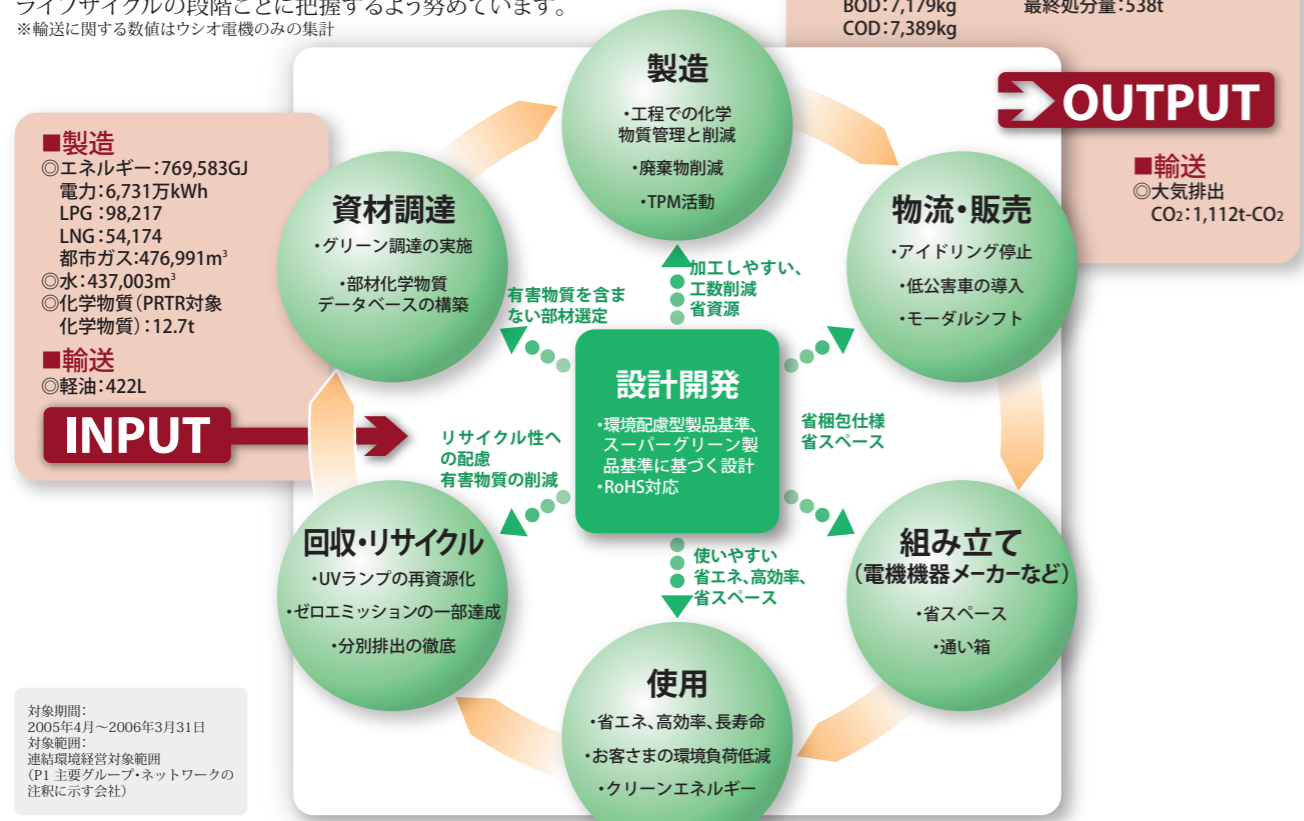
ウシオグループの事業活動が環境に与える影響を、製品のライフサイクルの段階ごとに把握するよう努めています。

※輸送に関する数値はウシオ電機のみ集計

活動の概要

ライフサイクル全体と各段階の両輪で環境負荷低減を図りました

LCAの考えに基づき環境配慮型製品開発を行い、ライフサイクル全体だけでなく、各段階でも環境負荷低減を図っています。



対象期間: 2005年4月~2006年3月31日  
対象範囲: 連結環境経営対象範囲 (P1 主要グループ・ネットワークの注釈に示す会社)

**INPUT (算出方法)**

- エネルギー: 環境省「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」に従い換算した、電気・燃料等、2005年度の使用エネルギー量
- 水資源量: 2005年度に工場等事業所において使用された上水・工業用水等の水資源
- 化学物質: 2005年度のPRTR法対象化学物質の取り扱い量合算値

**OUTPUT (算出方法)**

- 大気排出: CO<sub>2</sub>換算温室効果ガス排出量/2005年度に工場等事業所から排出された、電力消費(間接排出)、燃料燃焼(直接排出)に伴う温室効果ガス量のCO<sub>2</sub>換算値
- 排水: NOx, SOx/工場等事業所から燃料燃焼(LPG等)に伴い排出される量
- 排出: 排水量/工場等事業所から河川等、または下水へ排水された量
- BOD/水中の有機物が微生物の働きによって分解される時に消費される酸素の量で、事業排水の有機汚濁排出量を測る
- COD/水中の有機物を酸化剤で化学的に分解した際に消費される酸素の量で、事業排水の有機汚濁排出量を測る
- 化学物質: 2005年度のPRTR法対象化学物質の届出排出量・移動量の合算値
- 廃棄物: 総排出量/工場等事業所から排出された廃棄物の総量
- 最終処分量/廃棄物のうち、埋立処分、単焼却された量

これからの取り組み

環境負荷をさらに詳細に把握し、より一層、環境経営を向上

グループ全体の事業活動と製品のライフサイクルが環境に与える負荷を、さらに広範囲により詳細に把握し、効果的な施策を行うことにより、一層の環境経営の向上に取り組めます。

サイトデータ

2005年度は「ウシオ連結環境元年」と位置づけ、グループでの環境保全強化(EMS認証取得、各ガイドラインや環境会計の導入など)を重点テーマとして活動しました。サイトデータにはPRTR結果、PCB保有状況、アスベスト問題等リスクマネジメントの結果も掲載しています。なお、2005年度、各サイトに対する環境関連の法令違反・訴訟・罰金・科料・事故はありませんでした。

●生産サイト●

**ウシオ電機株式会社 播磨事業所(ランプカンパニー)**

〒671-0224 兵庫県姫路市別所町 佐土1194

■主要生産品目  
超高圧UVランプ、NSHランプ、ハロゲンランプ、希ガスランプ、エキシマランプ など

●ISO認証状況  
ISO14001/1997.10  
ISO 9001/1993.05

●主な環境関連の取り組み  
①省エネ活動:2004年度同様、新棟にガスヒートポンプ空調を導入。電力監視モニターによる電力使用実績の「見える化」によるきめ細かな管理を実施  
②ゼロエミ:UVランプの再資源化処理を本格的に開始。処分場の定期点検を実施し、廃棄物の適正処理を確認  
③環境リスク低減:事業所敷地内4箇所に「地下水観測井戸」を設置。製造現場や環境施設の「環境リスク巡回」を実施

●PCB保有状況  
使用電気機器74台を保管(PCB廃棄物処理申込の早期登録完了)

●アスベストに関して  
建屋/一部に使用されていますが、飛散の可能性が無いことを確認  
社員/健康被害の可能性のある社員について、検診を実施

INPUT	
項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	269,527
水資源(m <sup>3</sup> )	61,646
OUTPUT	
項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	8,550
NOx(kg)	243
SOx(kg)	0
総排水量(m <sup>3</sup> )	61,646
BOD(kg)	5,184
COD(kg)	2,688
PRTR	
クロロホルム(kg):大気	4,500
モリブデン(kg):下水	1
廃棄物	
総排出量(kg)	387,100
最終処分量(kg)	11,300
資源有効利用率(%)	97.1

**ウシオ電機株式会社 生産技研横浜事業所(システムカンパニー)**

〒225-0004 神奈川県横浜市青葉区 元石川町6409

■主要生産品目  
各種露光装置、スポットUV照射装置、光測定器 など

●ISO認証状況  
ISO14001/2004.02  
ISO 9001/1997.07

●主な環境関連の取り組み  
①廃棄物の有効利用率下期100%を達成(通期では91.3%)  
②省エネ活動において、電力監視システムを導入しデータ分析を行いながら電力使用量の削減。ジュースの自動販売機を省エネタイプに切替  
③グリーン調達の一環として、サプライヤーに対し、専門の外部講師を招き環境教育(EA21説明会)を実施

●PCB保有状況  
使用電気機器3台を保管(PCB廃棄物処理申込の早期登録完了)

●アスベストに関して  
建屋/一部に使用されていますが、飛散の可能性が無いことを確認  
社員/健康被害を受けた社員はいません

INPUT	
項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	27,706
水資源(m <sup>3</sup> )	13,283
OUTPUT	
項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	1,073
NOx(kg)	21
SOx(kg)	10
総排水量(m <sup>3</sup> )	13,283
BOD(kg)	-
COD(kg)	-
PRTR	
廃棄物	
総排出量(kg)	121,620
最終処分量(kg)	10,540
資源有効利用率(%)	91.3

**ウシオ電機株式会社 御殿場事業所** ※ランプカンパニー・システムカンパニーがそれぞれ生産を行っています。

〒412-0038 静岡県御殿場市駒門1-90

■主要生産品目  
超高圧UVランプ、液晶パネル関連装置、露光装置 など

●ISO認証状況  
ISO14001/2004.10(ランプカンパニー拡大認証時)、2004.02(システムカンパニー)  
ISO 9001/1995.10(ランプカンパニー拡大認証時)、1997.07(システムカンパニー)

●主な環境関連の取り組み  
①管理棟において電気・水使用量監視システムを導入し、省エネ活動を実施  
②今まで埋立処分していた石英ガラス屑をリサイクル化するための調査を開始  
③管理棟の社員食堂設置にともない、全ての厨房機器をオール電化

●PCB保有状況  
使用・保管しているものは無し

●アスベストに関して  
建屋/一部に使用されていますが、飛散の可能性が無いことを確認  
社員/健康被害を受けた社員はいません

INPUT	
項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	32,028
水資源(m <sup>3</sup> )	44,578
OUTPUT	
項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	1,063
NOx(kg)	150
SOx(kg)	48
総排水量(m <sup>3</sup> )	44,848
BOD(kg)	67
COD(kg)	54
PRTR	
クロロホルム(kg):大気	910
廃棄物	
総排出量(kg)	70,173
最終処分量(kg)	18,788
資源有効利用率(%)	73.2



### ウシオライティング株式会社

※取り組み・数値に関しては兵庫ウシオライティング(株)を含む

●ISO認証状況

ISO14001/2003.01 (2006.03に支店など5拠点を含め拡大認証)  
ISO 9001/2000.12

●主な環境関連の取り組み

- ①空調機の間欠運転や設備の省エネ機種への更新(空気圧縮機、空調機、排風機など)
- ②カドミウム含有銀端子材を代替品に切替、鉛含有封着材を鉛レス化し、有害物質含有材料を削減
- ③労働安全衛生マネジメントシステムと環境マネジメントシステムを一本化して運用し、効率よく運営
- ④周辺緑地整備活動を促進

●PCB保有状況

使用・保管しているものは無し

●アスベストに関して

建屋/一部に使用されていますが、飛散の可能性が無いことを確認  
社員/健康被害を受けた社員はいません

INPUT

項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	58,280
水資源(m <sup>3</sup> )	26,000

OUTPUT

項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	2,197
NOx(kg)	490
SOx(kg)	0
総排水量(m <sup>3</sup> )	8,403
BOD(kg)	43
COD(kg)	78

PRTR	
モリブデン(kg):下水	0
廃棄物	
モリブデン(kg):廃棄物	178

廃棄物	
総排出量(kg)	134,056
最終処分量(kg)	49,256
資源有効利用率(%)	63.3

〒679-2215  
兵庫県神崎郡福崎町  
西治860-22  
●主要生産品目  
照明用ハロゲンランプ、メタルハライドランプ、特殊ヒーター、ファイバー光源装置など



### 日本電子技術株式会社

●ISO認証状況

ISO14001/2004.08  
ISO 9001/1999.05

●主な環境関連の取り組み

- 1電子文書化による紙使用量、約2万枚の削減(A4換算)
- 2梱包材の低減活動として、取引先さまとの通い箱化を推進。約8割の取引先さまで活用
- 3定期的に近隣住民とのコミュニケーションを行い、環境影響調査を実施

●PCB保有状況

使用・保管しているものは無し

●アスベストに関して

建屋/使用なし  
社員/健康被害を受けた社員はいません

INPUT

項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	845
水資源(m <sup>3</sup> )	261

OUTPUT

項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	36
NOx(kg)	30
SOx(kg)	0
総排水量(m <sup>3</sup> )	261
BOD(kg)	-
COD(kg)	-

PRTR	
モリブデン(kg):下水	-

廃棄物	
総排出量(kg)	4,040
最終処分量(kg)	240
資源有効利用率(%)	94.1

〒229-0021  
神奈川県相模原市  
高根2-2-27  
●主要生産品目  
映像信号切替装置、Vテック向けPHOBOS基板(映像用)、TAB検査装置用カメラ基板 など



### 群馬ウシオ電機株式会社

●ISO認証状況

ISO14001/2006.05  
ISO 9001/2002.01

●主な環境関連の取り組み

- ①環境マネジメントシステムを構築し運用および改善活動を通じ、2006年5月に外部認証機関の認証取得。今後はさらなる環境保全活動を推進。
- ②工場環境を整える活動として毎週15分、全員参加で5S活動を実施。(建屋や敷地内外の担当場所を清掃・整備。花壇や植木の手入れ。配管確認・修理などの環境リスク低減)

●PCB保有状況

使用電気機器1台を保管

●アスベストに関して

建屋/一部に使用されていますが、飛散の可能性が無いことを確認  
社員/健康被害を受けた社員はいません

INPUT

項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	5,177
水資源(m <sup>3</sup> )	2,500

OUTPUT

項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	205
NOx(kg)	50
SOx(kg)	0
総排水量(m <sup>3</sup> )	3
BOD(kg)	0
COD(kg)	-

PRTR	
モリブデン(kg):下水	-

廃棄物	
総排出量(kg)	16,330
最終処分量(kg)	6,860
資源有効利用率(%)	58.0

〒374-8521  
群馬県館林市近藤町262  
●主要生産品目  
事務用機器、医療用機器、光源応用機器 など



### USHIO AMERICA, Inc. (UAI)

※取り組み・数値に関してはUSHIO CANADA, INC.(UCI), EVENT AUDIO VISUAL GROUP, INC.(EAVG), CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.(CDSO), CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.(CDSU), CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS (SHANGHAI) LTD.(CDS)を含む

●ISO認証状況

ISO14001/EMS構築中  
ISO 9001/1987.06(CDSC) 2005.10(UAI)

●主な環境関連の取り組み

- 1EMS構築に向け、ISO14001内部環境監査員を養成(UAI)
- 2省エネ活動:冷房の設定温度を高温設定。照明設備の間引き(CDSC)
- 3環境保全活動:風力発電会社への研究開発費の寄付(UAI)、電気自動車レース(エレクトラソン)参加チームへの出資(CDSC)

INPUT

項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	236,670
水資源(m <sup>3</sup> )	37,815

OUTPUT

項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	9,184
NOx(kg)	1,155
SOx(kg)	1
総排水量(m <sup>3</sup> )	37,815
BOD(kg)	-
COD(kg)	-

廃棄物	
総排出量(kg)	335,300
最終処分量(kg)	285,415
資源有効利用率(%)	14.9

5440 Cerritos Avenue,  
Cypress, CA 90630, U.S.A.  
●主要生産品目  
ハロゲンランプ、工業用ハロゲンヒーター、各種プロジェクター、デジタル映写機システム など



### 筑波ウシオ電機株式会社

●ISO認証状況

ISO14001/2005.04  
ISO 9001/2004.03

●主な環境関連の取り組み

- ①化学物質等の安全管理および環境施設の自主管理の推進
- ②廃棄物の分別による再資源化の推進

●PCB保有状況

使用電気機器12台を使用しています

●アスベストに関して

建屋/使用なし  
社員/健康被害を受けた社員はいません

INPUT

項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	10,546
水資源(m <sup>3</sup> )	2,600

OUTPUT

項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	381
NOx(kg)	8
SOx(kg)	0
総排水量(m <sup>3</sup> )	2,482
BOD(kg)	3
COD(kg)	-

PRTR	
モリブデン(kg):下水	-

廃棄物	
総排出量(kg)	12,340
最終処分量(kg)	3,400
資源有効利用率(%)	72.5

〒300-2635  
茨城県つくば市東光台5-2-1  
●主要生産品目  
メタルハライドランプ、クセノンバルブランプ など



### BLV LICHT- UND VAKUUMTECHNIK GmbH

※取り組み・数値に関してはDipl.-Ing. Reinhold Eggers GmbH(EGG)を含む

●ISO認証状況

ISO14001/EMS構築中  
ISO 9001/1991.12

●主な環境関連の取り組み

- 1暖房用燃料を灯油から地域設備を利用した天然ガスへ変更し、環境負荷低減および地域社会への貢献を実現
- 2熱交換機の設置を行い、省エネルギーに貢献
- 3使用済みランプリサイクリング会社の共同設立(WEEE対応)

INPUT

項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	41,563
水資源(m <sup>3</sup> )	3,000

OUTPUT

項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	1,593
NOx(kg)	78
SOx(kg)	1
総排水量(m <sup>3</sup> )	3,000
BOD(kg)	-
COD(kg)	-

廃棄物	
総排出量(kg)	89,100
最終処分量(kg)	4,800
資源有効利用率(%)	94.6

Münchner Straße 10,85643  
Steinhöring, Germany  
●主要生産品目  
メタルハライドランプ、照明用ハロゲンランプ、ヒーター用ハロゲンランプ、高圧UVランプ など



### USHIO HONG KONG LTD.

※取り組み・数値に関してはUSHIO (SUZHOU) Co., LTD.(USZ)、USHIO SHANGHAI, INC.(USI)を含む

#### ●ISO認証状況

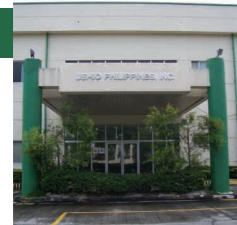
ISO14001/2005.03(USZ)  
ISO 9001/2003.06(UHK) (ISO9002/1998.02より規格変更)  
2005.03(USZ)

#### ●主な環境関連の取り組み

- ISO14001だけでなく、ISO9001やOHSAS18001の認証を取得し、これらを一体化したマネジメントシステムの運用を行なうことで、効率的な取り組みを実施(USZ)
- 環境ポスターを毎月作成し、社員の環境意識を高めるとともに、知識の向上を図る(USZ)
- グリーン調達に関する勉強会を開催し、RoHS指令をはじめとした法規制、お客さまの環境要求などを把握・確認し、早目の対応を行う(そのことがお客さまの監査ではよい評価につながっています)(USZ)

Suites 3113-14, 31/F, Tower 6, The Gateway, 9 Canton Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong  
**■主要生産品目**  
 照明用ハロゲンランプ、OA機器用ハロゲンランプ など

INPUT	
項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	30,626
水資源(m <sup>3</sup> )	17,651
OUTPUT	
項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	1,103
NOx(kg)	64
SOx(kg)	0
総排水量(m <sup>3</sup> )	17,651
BOD(kg)	-
COD(kg)	-
廃棄物	
総排出量(kg)	151,969
最終処分量(kg)	118,463
資源有効利用率(%)	22.0



### USHIO PHILIPPINES, INC.

#### ●ISO認証状況

ISO14001/2004.06  
ISO 9001/2000.12

#### ●主な環境関連の取り組み

- 作業環境の改善として給排気のバランスを取るようダクト工事を行い、CO量を基準値以下に低減
- ローカルサプライヤーを集めて、自社の環境の取り組みを説明
- 職場の環境改善の一環として、職場内通路(廊下)に植物を配置

First Cavite Industrial Estate, Barangay Langkaan, Dasmariñas, Cavite, Philippines  
**■主要生産品目**  
 OA用ハロゲンヒーターランプ、照明用ハロゲンランプ、クセノンショートアークランプ など

INPUT	
項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	29,339
水資源(m <sup>3</sup> )	223,980
OUTPUT	
項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	1,038
NOx(kg)	390
SOx(kg)	0
総排水量(m <sup>3</sup> )	223,980
BOD(kg)	1,881
COD(kg)	4,569
廃棄物	
総排出量(kg)	33,100
最終処分量(kg)	1,100
資源有効利用率(%)	96.7



### TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.

※取り組み・数値に関してはUSHIO LIGHTING(HONG KONG)CO., LTD.(ULHK)を含む

#### ●ISO認証状況

ISO14001/2004.04(TULI)  
ISO 9001/2003.03(TULI)  
(ISO9002/1997.07 USHIO TAIWAN, INC.として取得後、分社の後、規格変更)

#### ●主な環境関連の取り組み

- 裏紙を使った用紙利用を促進。また、外部から持ち込んだゴミは持ち帰るように徹底。各自の資源に対する意識向上とともに、廃棄物の低減につながった
- 毎月一度目標を決め、各部署で5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)担当者を決めて自部署の課長以上と見回りを実施
- 毎週末の終業時刻前に20分間一斉清掃を実施。また隔週で工場建屋外の雑草取りなど工場周辺の清掃を実施

#82, Taiho Road, Taiho-Li, Chupei, Hsinchu Hsein, Taiwan, R.O.C.  
**■主要生産品目**  
 舞台照明用ハロゲンランプ、一般照明用ハロゲンランプ、SSTV用メタルハライドランプ など

INPUT	
項目	数値
総エネルギー投入量(GJ)	15,821
水資源(m <sup>3</sup> )	2,570
OUTPUT	
項目	数値
温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	611
NOx(kg)	49
SOx(kg)	0
総排水量(m <sup>3</sup> )	2,570
BOD(kg)	-
COD(kg)	-
廃棄物	
総排出量(kg)	21,400
最終処分量(kg)	18,400
資源有効利用率(%)	14.0

## ●非生産サイト●

〈国内〉



### ウシオ電機株式会社 本社

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1

#### ●ISO認証状況

ISO14001/2004.12

#### ●主な環境関連の取り組み

- プロジェクター利用や音声会議・TV会議・ウェブ会議システムを推進し、移動時間・費用・エネルギー削減を実施
- 廃棄物の有効利用率を上げるために容器を回収する仕出し弁当を導入検討開始(有効利用できないプラスチックゴミ低減対策)

#### ●アスベスト状況

建屋/一部に使用、飛散の可能性が無いことを確認(ビルテナントとして入居)  
社員/健康被害を受けた社員はいません



### ウシオ電機株式会社 東京営業本部

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1

#### ●ISO認証状況

ISO14001/2004.10(ランプカンパニー拡大認証時)

#### ●主な環境関連の取り組み

- 本社と同じビルに入居していることから、情報を共有化し効率よく環境負荷低減活動を実施
- お客さまへの環境対応の一環として、環境に関する法規制などの教育を全営業部員を対象に実施。RoHS指令をはじめ、世界の法規制の動向、情報の共有化と知識のレベルアップを図った

#### ●アスベスト状況

建屋/一部に使用、飛散の可能性が無いことを確認(ビルテナントとして入居)  
社員/健康被害を受けた社員はいません



### ウシオ電機株式会社 大阪支店

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-13-9

#### ●ISO認証状況

ISO14001/2004.10(ランプカンパニー拡大認証時)

#### ●主な環境関連の取り組み

- 省エネ活動(不在場所の消灯や省電力OA機器の導入などにより前期比約17%の削減)
- 社有車にハイブリッドカーを導入。環境負荷低減とあわせ、燃費約55%向上
- 紙の利用削減で、両面印刷にあわせて、A5用紙の利用も推進
- 廃棄物の有効利用率100%達成

#### ●アスベスト状況

建屋/使用なし(ビルテナントとして入居)  
社員/健康被害を受けた社員はいません



### 株式会社 ジーベックス

〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-9-4西野金陵ビル  
 ■主要販売製品/映画館用映写機材、映写機用クセノンランプ、映画用音響機材 など

#### ●ISO認証状況

ISO14001/EMS構築中

#### ●主な環境関連の取り組み

- 環境方針を制定。環境一般教育の実施・実践、またグループ環境交流会を実施し社員に対しEMSの認識を浸透させる活動を開始
- 日常社員ができることを地道に行なっていくことが基本とし、まずは分別排出の徹底を実施
- アスベストの製品使用(過去製品での使用)や建屋・健康被害なども含め調査。販売製品への過去使用について、ホームページ上で情報開示を行った

#### ●アスベスト状況

建屋/使用なし(ビルテナントとして入居)  
社員/健康被害を受けた社員はいません

### 環境パフォーマンスデータ

項目		本社	東京営業本部	大阪支店	ジーベックス	
INPUT	総エネルギー投入量(GJ)	1,913	929	244	1,136	
	水資源(m <sup>3</sup> )	-	-	-	-	
OUTPUT	温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	76	35	10	58	
	総排水量(m <sup>3</sup> )	-	-	-	-	
	廃棄物	総排出量(kg)	15,950	10,120	1,000	1,856
		最終処分量(kg)	500	400	0	1,856
資源有効利用率(%)		96.9	96.3	100.0	0.0	

〈海外〉

Sky Park, Breguetlaan 16-18, 1438BC Oude Meer, The Netherlands

**USHIO EUROPE B.V.** ■主要販売製品／ハロゲンランプ、超高圧UVランプ など

※取り組み・数値に関してはUSHIO FRANCE S.A.R.L.(UFS)、USHIO DEUTSCHLAND GmbH(UD)、USHIO U.K., LTD.(UUK)を含む

●ISO認証状況  
ISO14001／EMS構築中

●主な環境関連の取り組み

- ①グループ各社が早く適切な環境対応ができるよう、欧州における各種環境情報を収集
- ②現行のシネマ向けキセノンランプよりも低い入力でも明るい高効率ランプの開発をし、2005年度中に4品種・合計165本を販売

#1, Jalan Kilang#05-01, Dynasty Industrial Bldg., Singapore 159402

**USHIO SINGAPORE PTE LTD.** ■主要販売製品／ハロゲンランプ、超高圧UVランプ など

●ISO認証状況  
ISO14001／EMS構築中

●主な環境関連の取り組み

- ①一般的に温度調節器がないため、空調機に温度調節器を取り付け、空調機毎に温度調節およびon/offができるようにし、電力量を削減
- ②社内イントラを使用する事により、プリントアウトする機会が減り、紙の削減を実施
- ③輸出梱包箱をできるだけ再利用し、経費削減および廃棄物低減に努力

10/F, #31, Sec.1 Chung-Shiaw E.Road, Taipei, Taiwan, R.O.C.

**USHIO TAIWAN, INC.** ■主要販売製品／超高圧UVランプ、プロジェクター用ランプ、各種露光装置 など

●ISO認証状況  
ISO14001／2006.02

●主な環境関連の取り組み

- ①ISO14001新規認証を取得
- ②ゴミ分別を事務所内ゴミ箱には紙ゴミのみ、その他ゴミに関しては事務所外の分別ゴミBOXにて回収
- ③有毒ガス漏れに対する緊急対応演習実施(対処法の再確認および中毒者の救急法訓練の実施)

14/F Dukheung Bldg., 1328-10, Seocho-Dong, Seocho-ku, Seoul, Korea

**USHIO KOREA, INC.** ■主要販売製品／超高圧UVランプ、クセノンショートアーケランプ、ハロゲンランプ、各種露光装置、光学装置、レーザー など

●ISO認証状況  
ISO14001／EMS構築中

●主な環境関連の取り組み

- ①2006年5月に環境方針を制定し、ISO14001認証取得に向け具体的に展開
- ②コピー用紙の裏紙利用から使い捨て紙コップの廃止に至るまで、資源の有効利用の取り組みを推進
- ③お客さまの安全を第一に考え、アスベスト使用製品についての調査を実施。問題が無いことを確認

項目		USHIO EUROPE B.V.	USHIO SINGAPORE PTE LTD.	USHIO TAIWAN, INC.	USHIO KOREA, INC.	
INPUT	総エネルギー投入量(GJ)	368	682	2,824	3,358	
	水資源(m <sup>3</sup> )	496	131	492	-	
OUTPUT	温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> )	24	27	163	224	
	総排水量(m <sup>3</sup> )	-	-	-	-	
	廃棄物	総排出量(kg)	54	1,964	2,200	6,720
		最終処分量(kg)	54	1,964	1,500	2,880
	資源有効利用率(%)	0.0	0.0	31.8	51.7	

「USHIOサステナビリティレポート2006」を読んで



神戸大学大学院  
経営学研究科教授

國部克彦

ウシオ電機の「サステナビリティレポート2006」を読むと、「環境力」と「人間力」の重要性をトップコミットメントで強調されており、その成果を出すように全社一丸となって取り組んでいる様子が、よく伝わってきます。それぞれの部署での担当者の方々の言葉がたくさん詰まったこの報告書は、社員一人ひとりが環境コミュニケーションの担い手であるという最も基本的なことを体現しているといっ

て良いでしょう。環境パフォーマンスの説明にあたっては、各項目ごとに「活動の指針と目標」「活動の概要」「これからの取り組み」を詳しく説明されており、ウシオ電機の現状と今後の課題が良く分かる紙面作りになっています。サイトデータも充実しており、PCBやアスベストのような重要な問題について個別サイトごとに報告していることは、高く評価できます。ただ、ウシオ電機の製品がもたらす環境面への影響などの情報はもう少し拡充された方が良いでしょう。

環境パフォーマンスの説明にあたっては、各項目ごとに「活動の指針と目標」「活動の概要」「これからの取り組み」を詳しく説明されており、ウシオ電機の現状と今後の課題が良く分かる紙面作りになっています。サイトデータも充実しており、PCBやアスベストのような重要な問題について個別サイトごとに報告していることは、高く評価できます。ただ、ウシオ電機の製品がもたらす環境面への影響などの情報はもう少し拡充された方が良いでしょう。

れているので、それを可視化する環境経営指標の体系化とその開示が必要になってくると思われます。

社会性事項についても、知的財産の問題を含めて幅広く活動されていることが伝わってきます。ただ、社会性報告での「活動の指針と目標」は、環境報告と比べて、まだ抽象的なものが多いので、今後はこれらをどの程度管理可能な指標に落とし込んでいくかが課題のように思われます。

サステナビリティ経営の今後を考えるうえで、重要なポイントは、会社を取り巻くステークホルダーの方々の意見をいかに吸い上げて経営に反映させていくかです。特に、社会性については主要な関係者と積極的にダイアログを行い、何がウシオ電機にとって重要なCSR課題かを考え、経営に反映させるプロセスを持ち、その過程を開示することが大切です。

最後に、トリプルボトムラインの3つめの柱である経済情報に関する、もう少し社会的な情報を取り入れられる工夫をされれば、3つの柱がより調和的に示されることで、今後の展開を心から期待したいと思います。

編集後記 ご意見をいただいて

管理総括 管理本部  
環境マネジメント統括室  
執行役員 ゼネラルマネージャー

数永 健二

2003年の最初のサイト環境レポート発行から今日までの間、多くのお客さまからいただいたご支援・ご指導に厚く御礼申し上げます。

また、このたびの「サステナビリティレポート2006」に対する國部先生からの貴重なご意見は、身を引き締めるものと感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

社会に選ばれる企業を目指すウシオの取り組みに対し、「全社一丸となって取り組んでいる」とのご評価をいただいたことは、素直に嬉しく、新たな課題取り組みに向けて大きな励みとなるものです。ご指摘

いただいたものは、具体的な成果物となるよう、今後の取り組みに反映させる所存です。中でも、事業活動との一体化を目指す環境生産性向上活動は、ご指摘に答えられるよう具体的に推進してまいります。また、社会性事項の管理指標化や重要なCSR課題を経営に反映させるプロセスの開示についてのご指摘は「目からうろこ」の感があり、さらなるレベルアップを目指して取り組んでまいりたいと考えております。

なお、このレポートをご覧になられるみなさまから、これまで同様、ご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。